

# 岡山県一般生活者の防災意識と行動意図に関わる調査 報告書

～地域防災（共助）と家庭防災（自助）視点からの報告～

2023年8月22日（火）

山陽学園大学 地域マネジメント学部 防災調査学生チーム



*Student First* ～あなたが変わる出会いがある～

山陽学園大学・山陽学園短期大学

本調査に関わるお問い合わせ

山陽学園大学

地域マネジメント学部 地域マネジメント学科

准教授 神田 将志

メール : kanda\_masashi@sguc.ac.jp

電話 : 086-901-0671

携帯 : 090-1350-4168

## 1. 調査の目的・背景

本調査は、山陽学園大学地域マネジメント学部における「地域マネジメント実習」において、調査会社で1ヶ月間に及ぶ調査実務を学んだ3年生の石原希恵、谷原美咲が、調査に関わる学びを活かし、岡山県の一般生活者500人に対して防災に関わる意識調査を行い、その結果をまとめたものになります。調査の実務を学ぶことで、調査業務に関心を持ち、「調査を通じてなにか地域のために役立つことができるのではないかと考えた時に、岡山地域に住まう一般の生活者の防災意識を明らかにすることで、今後の防災計画に資する知見が得られるのではないかと考え、取り組んだ調査結果の報告になります。

災害が少ないと言われてきた岡山県ですが、実際に住んでいる一般生活者の認識は、決して楽観的ではないことが今回の調査でわかりました。家庭内での防災(自助)についての話し合いから始め、災害に対して危機感を抱いている30代が中心となって、世代間を超えて地域防災(共助)に取り組んでいくことが、いざという時の被害を最小限に抑えられると思われま

す。地域の自治体をはじめ、地域防災に関わるあらゆる団体、企業のみなさまにお役に立つことができればと考え、今回ご報告させていただきます。

## 2. 調査概要

調査方法	インターネットパネル調査 Freeazy活用(アイブリッジ株式会社)	調査実施主体	山陽学園大学 地域マネジメント学部3年生	
調査日	2023年8月9日(水)		石原 希恵、谷原 美咲 (調査サポート)	
	岡山県一般生活者 500名		地域マネジメント学部 准教授 神田 將志	
調査対象		男性	女性	
	20代	50	50	
	30代	50	50	
	40代	50	50	
	50代	50	50	
	60代	50	50	

## 3. 主な質問項目

- (1) 水害に対するリスク認識/年代別
- (2) 地震に対する不安感/年代別
- (3) 地域防災(共助)についての成果に対する認識/年代別
- (4) 地域防災(共助)についてかかる負荷に対する認識/年代別
- (5) 家庭防災(自助)についての成果に対する認識/年代別
- (6) 家庭防災(自助)についてかかる負荷に対する認識/年代別
- (7) 地域防災(共助)に関する活動への参加意識/年代別
- (8) 家庭防災(自助)に関する活動への参加意識/年代別
- (9) 防災について見聞きする情報源/年代別
- (10) 社会考慮意識
- (11) 地域コミュニティ意識
- (12) 地域における防災意図に影響を与える要因はなにか?(参考資料)
- (13) 家庭における防災意図に影響を与える要因はなにか?(参考資料)

## 4. 調査結果の概要

### ■ 調査結果からの考察（まとめ）

地域を巻き込む防災活動は、家庭内での防災（自助）についての話し合いから始め、災害に対して危機感を抱いている 30 代が中心となって、世代間を超えて地域のコミュニティでの防災（共助）に取り組んでいくことが、いざという時の被害を最小限に抑えられると考えられる。取り組むに当たってはまず、成果の期待が高く負荷の低い家庭内防災、次に地域における防災行動を起こす意図を醸成することが必要になる。

そのためには、常に多様なメディアの組み合わせによる的確な防災情報提供が必要になる。特に高齢者への情報提供は、高齢者が防災情報を見聞きするメディア（テレビ、新聞、行政広報など）に加え、周辺の人的サポートも含めて非常に配慮が必要になる。

### ■ 各調査項目のサマリー

#### (1) 水害に対するリスク認識

- 4 割が水害の被災についての危機感を持っている（決して少ない割合ではない）。
- 4 人に一人の割合で、現在住んでいる地域を水害を受けやすい地域として認識している。
- 他の年代に比べて、20 代～30 代において、水害での被災に対する危機意識が高いことがうかがわれる。
- 水害に対する不安感は 30 代がもっとも高い。

#### (2) 地震に対する不安感

- 地震のほうが水害に比べ、不安感や心配が強い。
- 岡山県民の半数以上が、地震に対して不安や心配を感じている。
- 年代が若くなるほど、地震に対しての不安は強い。
- 30 代が南海トラフや大地震に対しての不安が他の世代よりも高い。

#### (3) 地域防災（共助）についての成果に対する認識

- 地域防災（共助）では、約 6 割（58.2%）が「防災訓練」が何かの役立つと感じている。
- 地域防災（共助）においては、30 代 40 代が他の年代に比べて意識が高く、次いで 60 代の意識が高い。
- 地域防災（共助）に対する負担感は、20 代～40 代に「非常に負担を感じている」割合が多い。

- 地域防災について、負担に感じることを「そう思う」「非常にそう思う」+「そう思う」を含めると、50代が最も高く、7割弱（68%）を占めている。

#### (4) 地域防災（共助）についてかかる負荷に対する認識

- 2/3弱の回答者が地域防災（共助）に関わる負荷を認識している。これは共助（地域の役割）を、個人が主体となって行うことの負荷がまだ高いことを示していると思われる。
- 地域防災に対する負担感は、20代～40代に「非常に負担を感じている」割合が多い。特に30代に「非常にそう思う」割合が高く、問題意識・課題感が見受けられる。

#### (5) 家庭防災（自助）についての成果に対する認識

- 家庭防災において、家庭での防災用品の準備と、防災計画についての話し合いが役立つと考えられているのは約7割（69%）。
- 家庭での防災対策をしていれば大丈夫だと認識しているのは33.2%。  
家庭防災の成果はあるが、油断をしないという危機意識がうかがわれる。
- 家庭防災（自助）についての成果に対する肯定的な認識は、30代に強く見られた。
- 水害、地震に対する危機意識も高く、地域防災に対しても課題感を持っている30代は、家庭防災の効果も認識していることがうかがわれる。
- 30代は災害に対する認識も強い年代であり、課題感を感じていることがうかがわれる。

#### (6) 家庭防災（自助）についてかかる負荷に対する認識

- 家庭防災（自助）に対する負担感は、4割以上の回答者が、時間や手間がかかることや、難しさ、大変さを感じている。
- 家庭防災（自助）に対する負担感は、30代に強く見られた。家庭内で防災について話し合うことに対する負荷の感じ方は、他の年代に比べると低い。コミュニケーションが取りやすい年代なのかもしれない。
- 30代は災害に対する認識も強い年代であり、課題感を感じていることがうかがわれる。
- 防災用品の準備については、40代以下が50代以上に比べて、強く負担が高いと感じられている。

#### (7) 地域防災（共助）に関する活動への参加意識

- 地域防災（共助）についての勉強会、地域コミュニティでの防災活動、防災訓練などへの参加意識が見られるのは、25%前後（4人に一人の割合）に留まっている。
- 地域防災（共助）についての勉強会、地域コミュニティでの防災活動、防災訓練などへの参加意識が強く出ているのは30代。

## (8) 家庭防災（自助）に関する活動への参加意識

- 家庭防災（自助）について、家庭での話し合い、防災用品の準備、災害に関する情報の確認については、ほぼ半数以上の回答者で実施意識が見られた。
- 地域防災（共助）の実施意欲が約 25%に比べると、家庭防災（自助）の実施意欲は、ほぼ倍以上（50%以上）の実施意欲を持っている。
- 家庭防災（自助）について、「家庭で防災計画について話し合っておきたいと思う」意識は 30代で最も高い。
- 同様に「防災用品を準備」に対して強く意識しているのは 20代から 40代にみられる。
- 「情報収集」においても、強く意識しているのは、30代、20代、40代の順になっている。

## (9) 防災について見聞きする情報源

- 防災について見聞きする情報源は、マスメディアでは「テレビのニュースや番組、字幕情報」「インターネットでの検索など（防災・災害情報など）」が、5割以上となっている
- ローカルメディアでは「行政の広報（広報誌やメール）など」を、約 1 / 3 強が見聞きしている。
- パーソナルメディアでは、「スマートフォンなどへのメール情報（災害アラート情報）など」「LINE, Facebook, インスタグラム, YouTube などの SNS」を見聞きしている割合が 1 / 3 以上ある。
- 年代によって、防災に関わる情報源は異なることが確認された。マスメディアでも、テレビ、新聞、行政の広報は年代が上がるで見聞きする割合が高まり、逆にインターネットでの検索、SNS の活用、メール情報は下がる傾向にある。
- 高齢者には、テレビに加えて、新聞、行政の広報を通じた情報提供が有効である。
- すべての生活者に的確に情報を届けるためには、多様なメディアの組み合わせが必要だが、年代別に見ることではっきりする。特に高齢者への情報提供は、見聞きされるメディアに加え、周辺の人的サポートも含めて非常に配慮が必要な点である。

## (10) 社会考慮意識

- 約 3 割の回答者が、社会構造全体の中での自分の関わりを意識していることがうかがわれる。
- 社会の中での自分の関わりを意識していることが強くうかがわれるのは、20代～40代にみうけられ、特に強く意識しているのは年代が若い層であることが確認された。

## (11)地域コミュニティ意識

- 地域におけるコミュニティとの関わりについて、「地域コミュニティへの活動」「近所との付き合い」「地域での祭りや行事への参加」について、現状の関わりに肯定的な回答が得られたのは約2割弱に留まっている。
- 地域コミュニティでの関わりを意識していることが強くうかがわれるのも、社会の中で自分とのかかわりと同様に20代～40代に見受けられる。
- 30代は防災意識が高いものの、地域との付き合いが少ない感が見受けられる。

## 参考

### (12)地域における防災意図に影響を与える要因はなにか？

- 地域防災行動を引き起こすには、地域防災の成果に対してポジティブな認識を持ち、地域コミュニティへの参加など地域との付き合いをつくりながら、社会全体の中で自分の立ち位置を認識しておくことが大切であると考えられる。

### (13)家庭における防災意図に影響を与える要因はなにか？

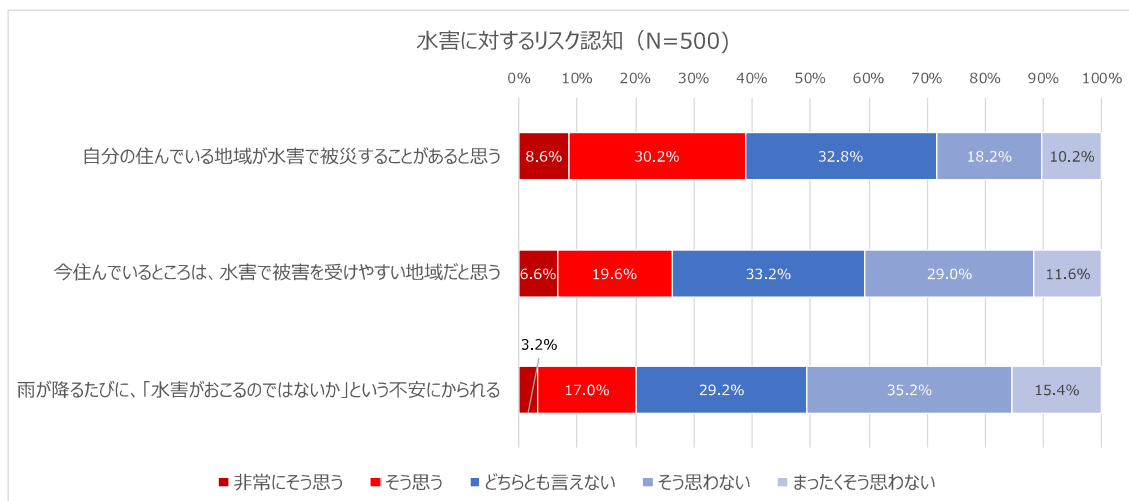
- 家庭での防災行動を引き起こすには、社会全体に想いをはせながら、自分がどのように行動すべきかを考えること。同時に地震や水害に対しての危機意識を抱いていることが大切であると考えられる。



## 4.調査詳細

### (1) 水害に対するリスク認識

- 4割が水害の被災についての危機感を持っている。
- 4人に一人の割合で、現在住んでいる地域を水害を受けやすい地域として認識している。



防災に対するリスク認識を以下の3点で確認した。

「自分の住んでいる地域が水害で被災することがあると思う」は、38.8%が「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）としている。4割弱で水害の被災意識を持っている。

「今住んでいるところは、水害で被害を受けやすい地域だと思う」のは、26.5%が「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）としている。4人に一人の割合で、現在住んでいる地域を水害を受けやすい地域として認識している。

また、「雨が降るたびに、「水害が起こるのではないか」という不安にかられる」と思うのは、20.2%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

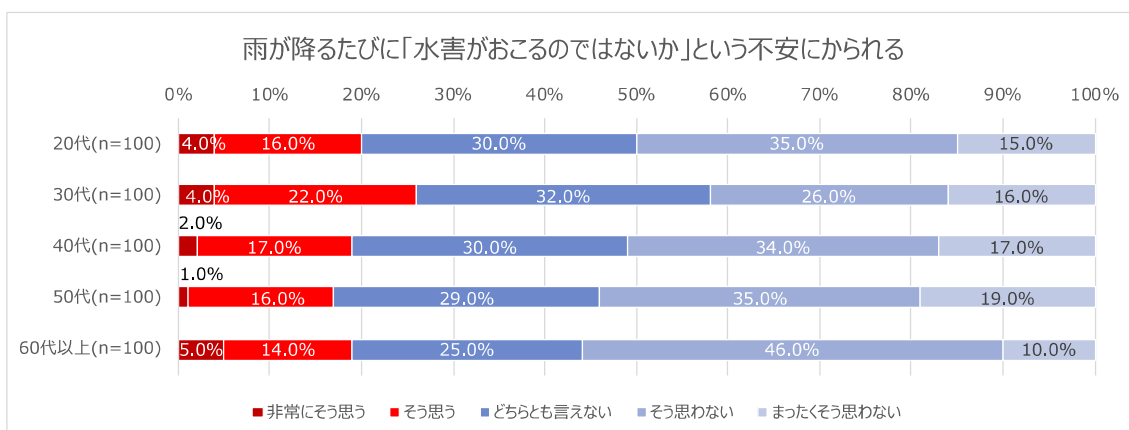
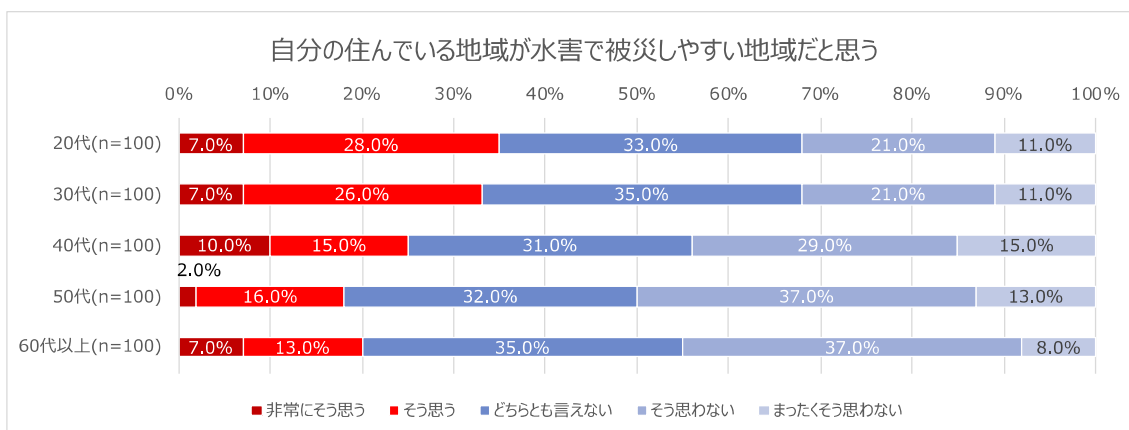
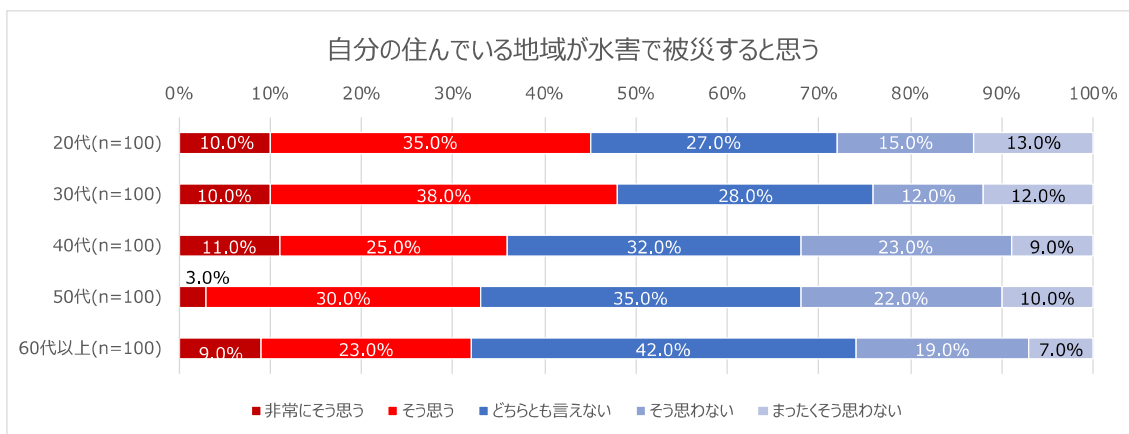
災害が少ない岡山県と言われているものの、決して少ない数字ではないと思われる。水害についての危機感が現れている結果となった。

一方、質問が「豪雨災害への危機感」「受けやすい地域である認識」「不安にかられる」へ変化すると、「そう思わない」の回答率が上がっていることから、現在の居住地域での豪雨災害の被災リスクの認識はあるものの、不安感は薄くなっていることから岡山県民の災害に対する受け取り方が見られる。



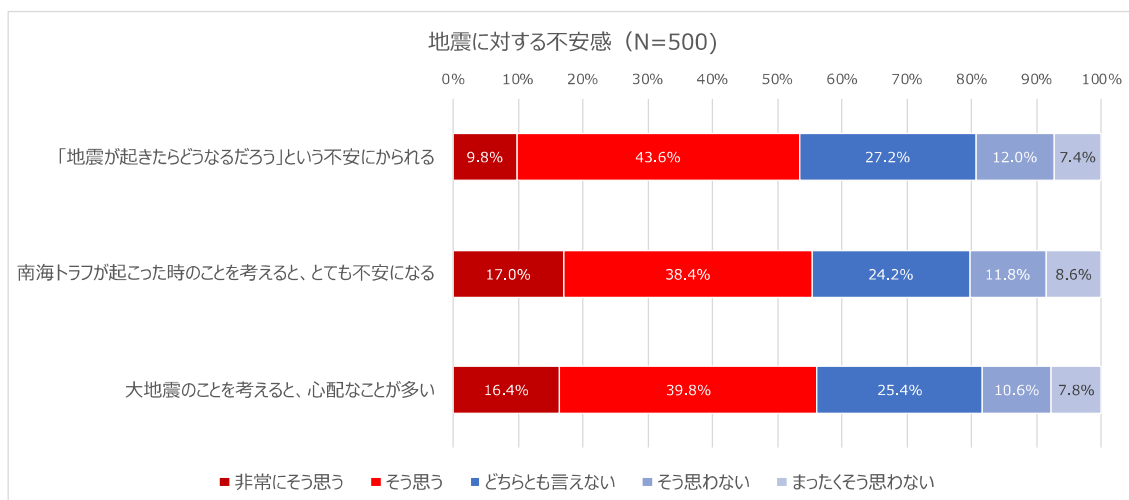
## (1) 水害に対するリスク認識【年代別】

- 他の年代に比べて、20代～30代において、水害での被災に対する危機意識が高いことがうかがわれる。
- 水害に対する不安感は30代がもっとも高い。



## (2) 地震に対する不安感

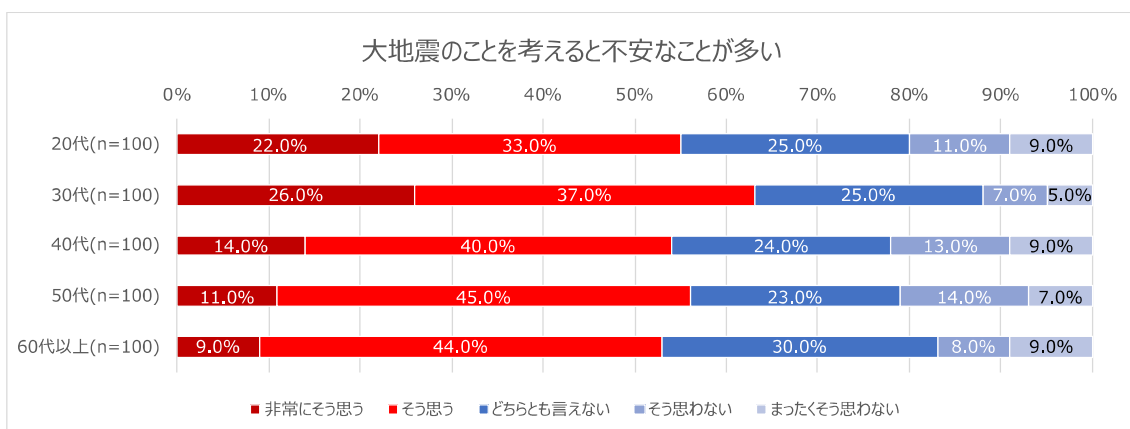
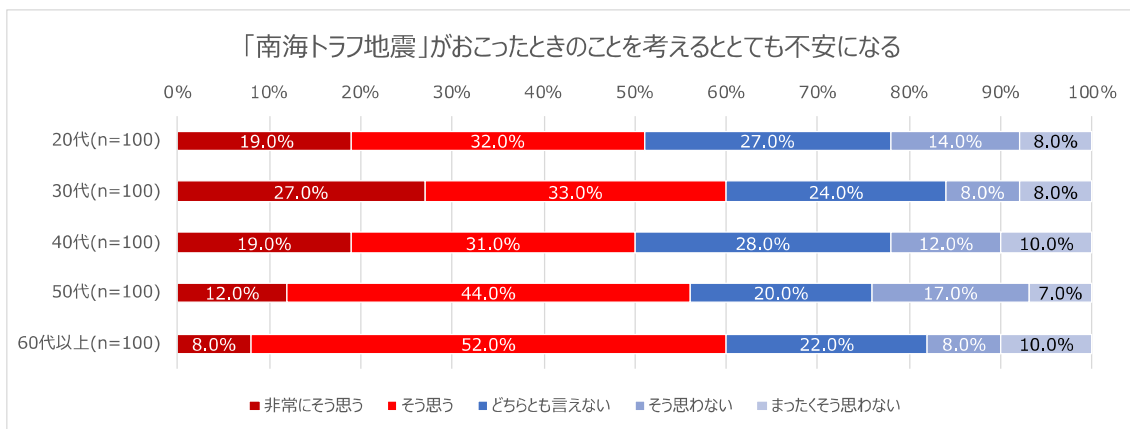
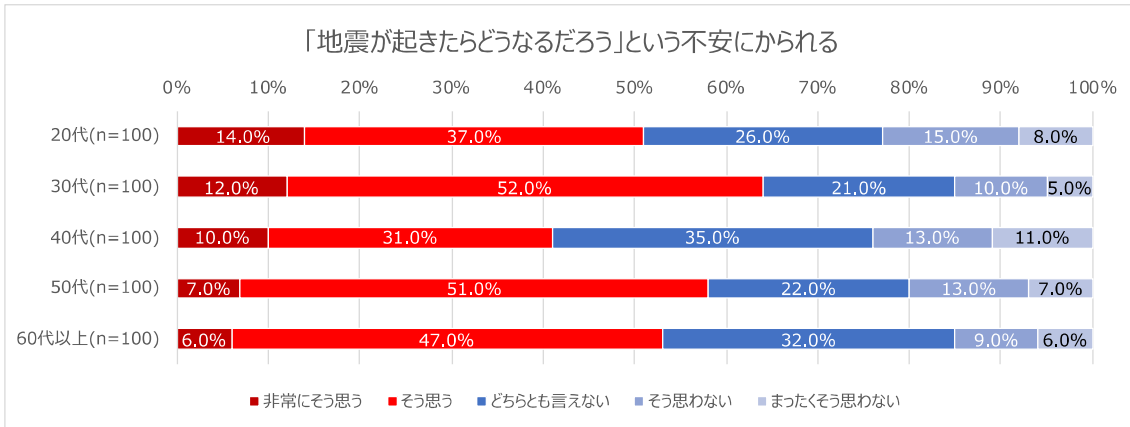
- 地震は水害に比べ、不安感や心配が強い。
- 岡山県民の半数以上が、地震に対して不安や心配を感じている。



地震に対する不安や心配について、「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）は3項目共に、50%以上が不安や心配を感じていることがわかった。岡山県民の半数以上は地震に対して不安や心配を感じている。水害に対する不安や心配よりも、地震のほうが強いことがわかる。南海トラフ地震を非常に不安に感じているのは17.0%、「大地震」のことを考えると、不安なことが多いと非常に感じているのは16.4%。

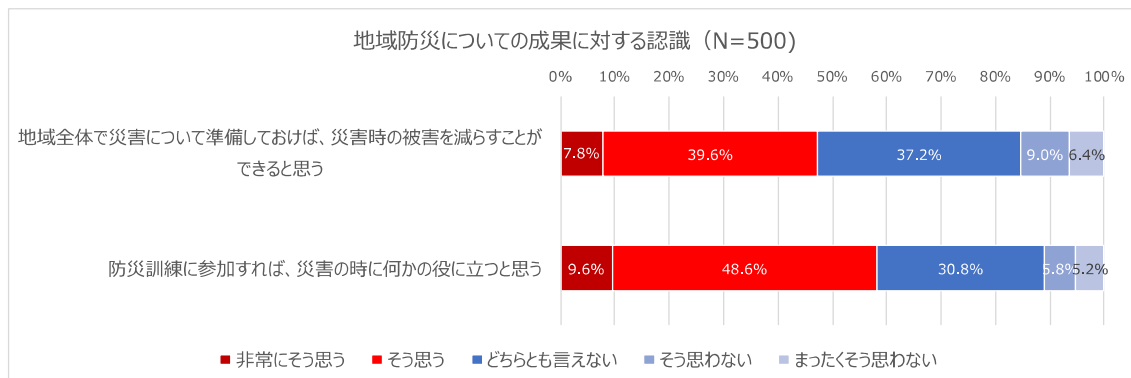
## (2) 地震に対する不安感【年代別】

- 年代が若くなるほど、地震に対しての不安は強い。
- 特に 30 代が南海トラフや大地震に対しての不安が他の世代よりも高い。



### (3) 地域防災（共助）についての成果に対する認識

■ 地域防災（共助）では、「防災訓練」が何かの役立つと感じているのは約6割（58.2%）。

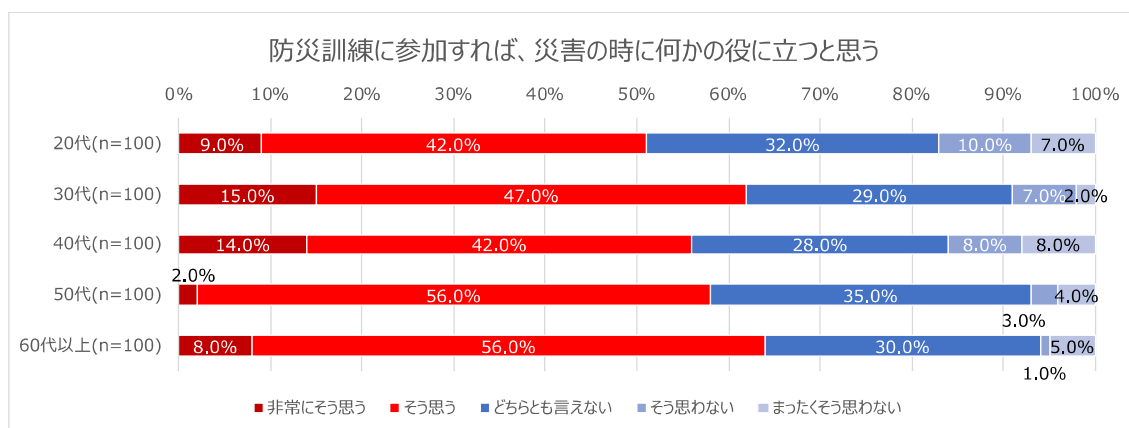
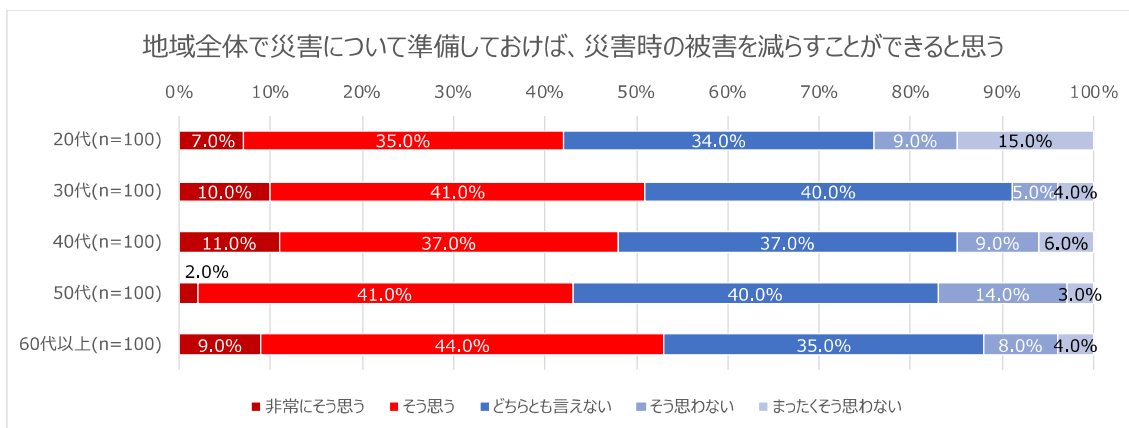


地域防災については、「防災訓練に参加すれば、災害の時に何かの役に立つと思う」について、「そう思う（「非常にそう思う」＋「そう思う」）」は58.2%。「地域全体で災害について準備しておけば、災害時の被害を減らすことができると思う」は、「そう思う（「非常にそう思う」＋「そう思う」）」が47.4%。

防災訓練のような具体的に地域で取り組める活動は6割近くが役立つと感じている。

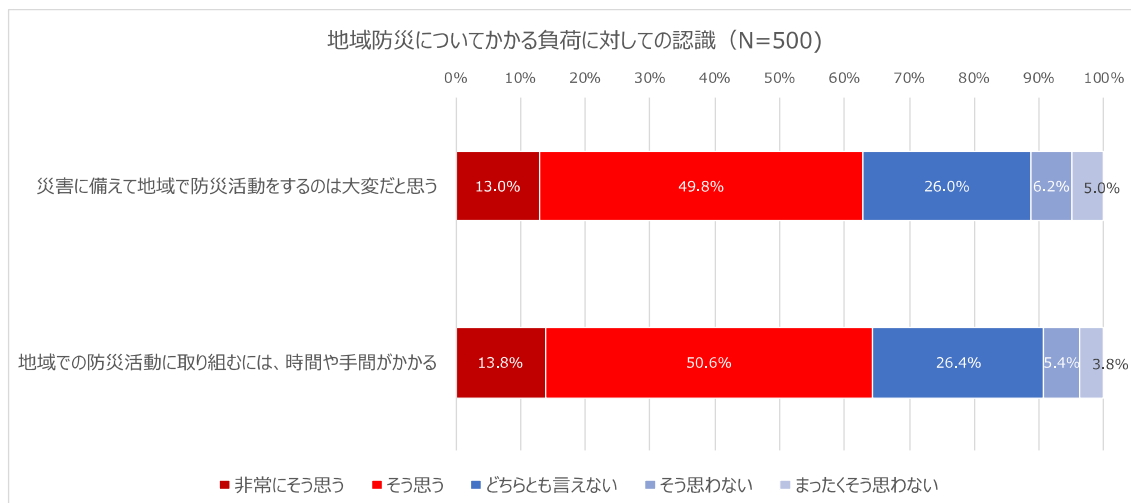
### (3) 地域防災（共助）についての成果に対する認識【年代別】

■ 地域防災においては、30代40代が他の年代に比べて意識が高く、次いで60代の意識が高い。



#### (4) 地域防災についてかかる負荷に対する認識

■ 2/3 弱の回答者が地域防災（共助）に関わる負荷を認識している。これは共助（地域の役割）を、個人が主体となってしまうことの負荷がまだ高いことを示していると思われる。



地域防災（共助）についてどれくらい負担感、時間がかかることや手間、大変さについて感じているのか、確認した。

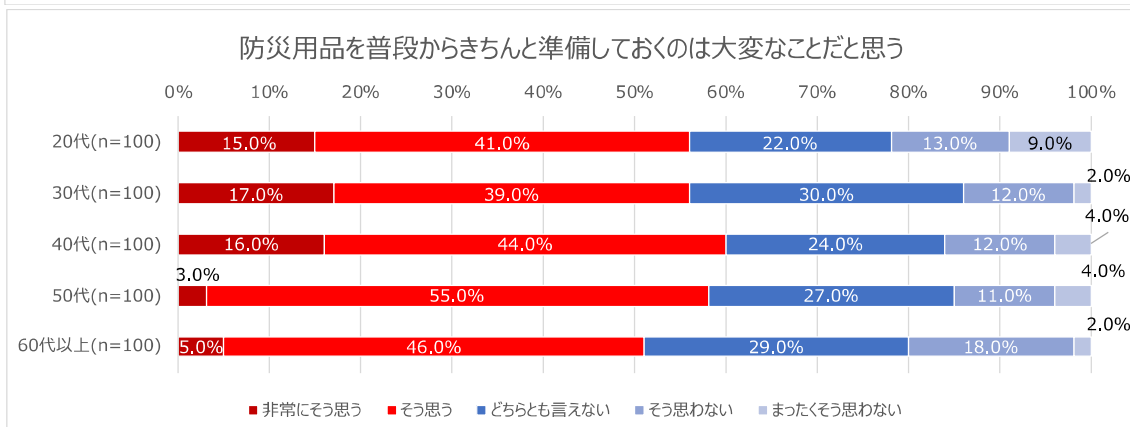
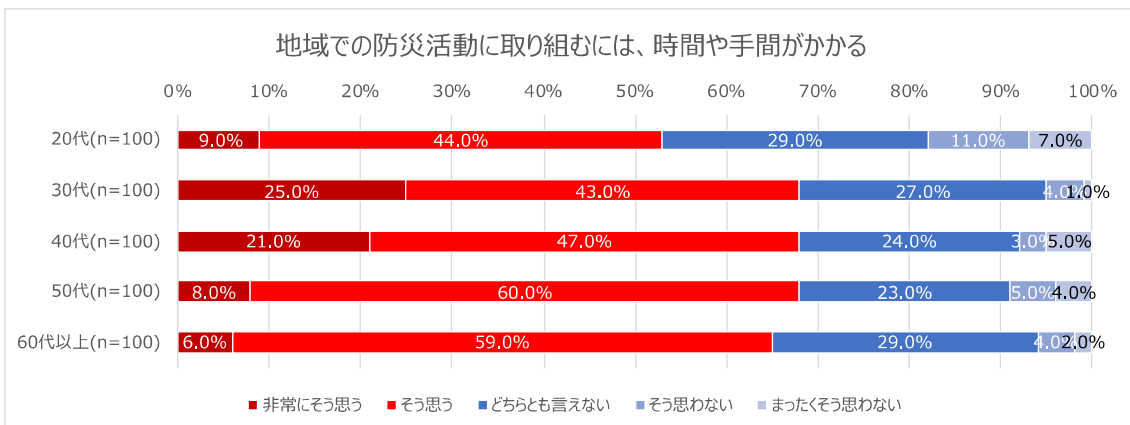
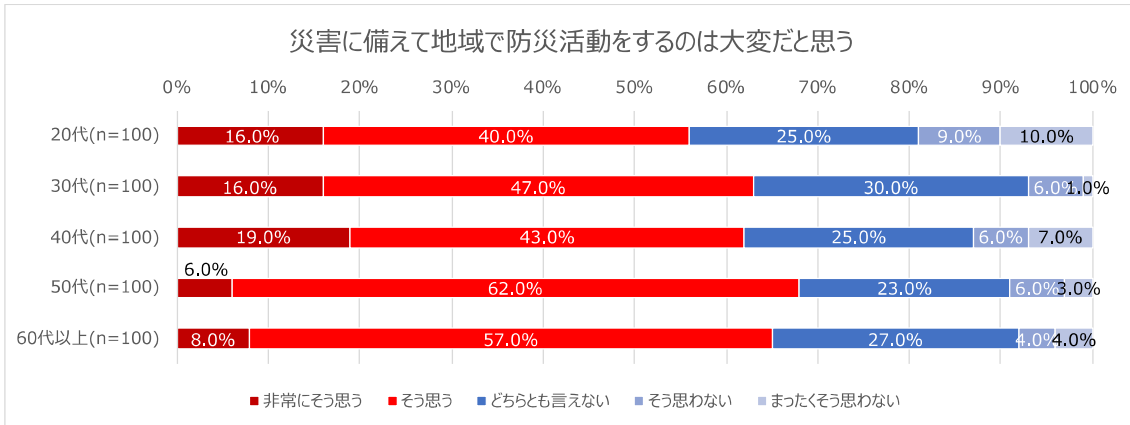
「災害に備えて地域で防災活動をするのは大変だと思う」と感じているのは、62.8%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

「地域での防災活動に取り組むには、時間や手間がかかる」と感じているのは、64.6%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

2/3 弱の回答者が地域防災に関わる負荷を認識している。これは共助（地域の役割）を、個人が主体となってしまうことの負荷がまだ高いことを示している。

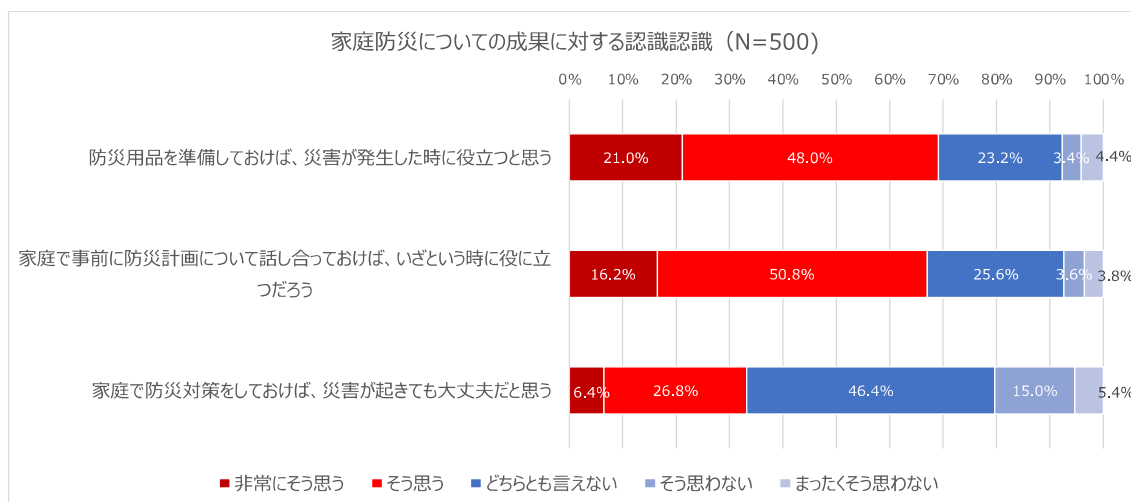
#### (4) 地域防災（共助）についてかかる負荷に対する認識【年代別】

- 地域防災に対する負担感は、20代～40代に「非常に負担を感じている」割合が多い。（30代に「非常にそう思う」割合が高く、問題意識・課題感が見受けられる。）
- 災害に備えた地域での防災活動について、大変だと「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）のは、50代が最も高く、7割弱（68%）を占めている。



## (5) 家庭防災（自助）についての成果に対する認識

- 家庭防災において、家庭での防災用品の準備と、防災計画についての話し合いが役立つと考えられているのは約7割（69%）。
- しかしながら家庭での防災対策をしていれば大丈夫だと認識しているのは33.2%。家庭防災の成果はあるが、油断をしないという危機意識がうかがわれる。



家庭防災については、「防災用品を準備しておけば、災害が発生した時に役立つと思う」は、69.0%が「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）としている。

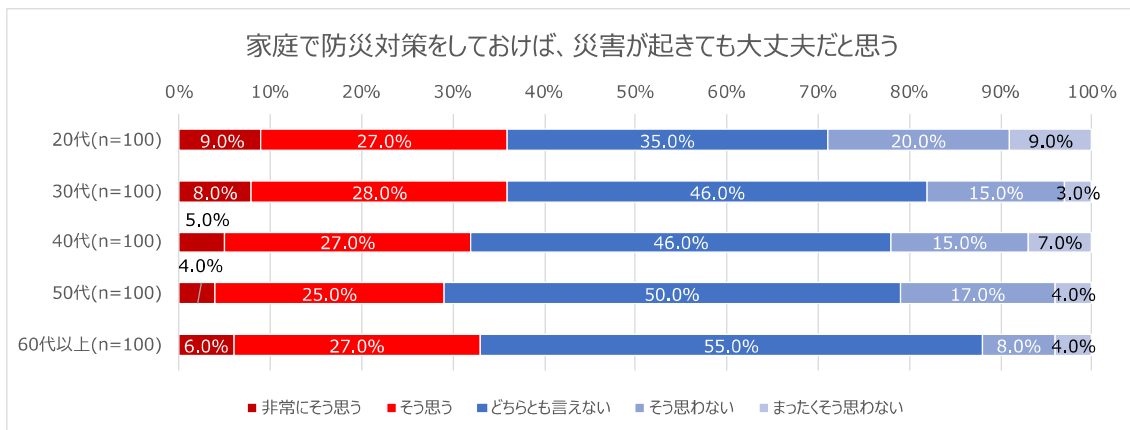
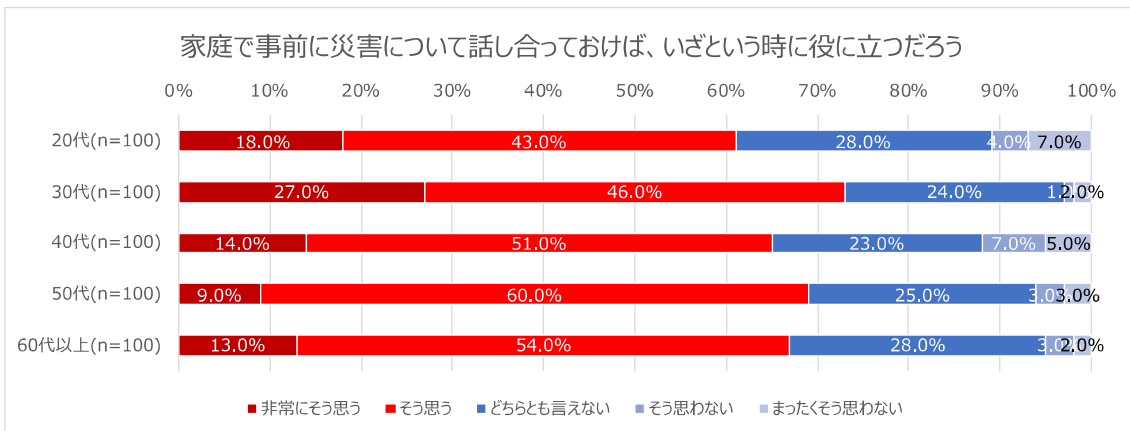
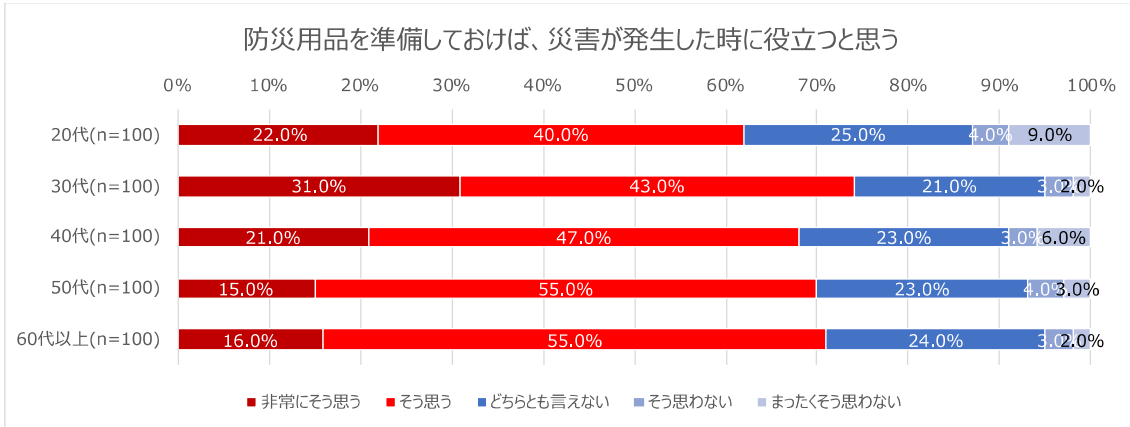
「家庭で事前に防災計画について話し合っておけば、いざという時に役に立つだろう」は、67.0%が「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）としている。

「家庭で防災対策をしておけば、災害が起きても大丈夫だと思う」は、33.2%が「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）とし、家庭で防災対策はしていても、油断はできないという、災害に対する危機意識が感じられる。



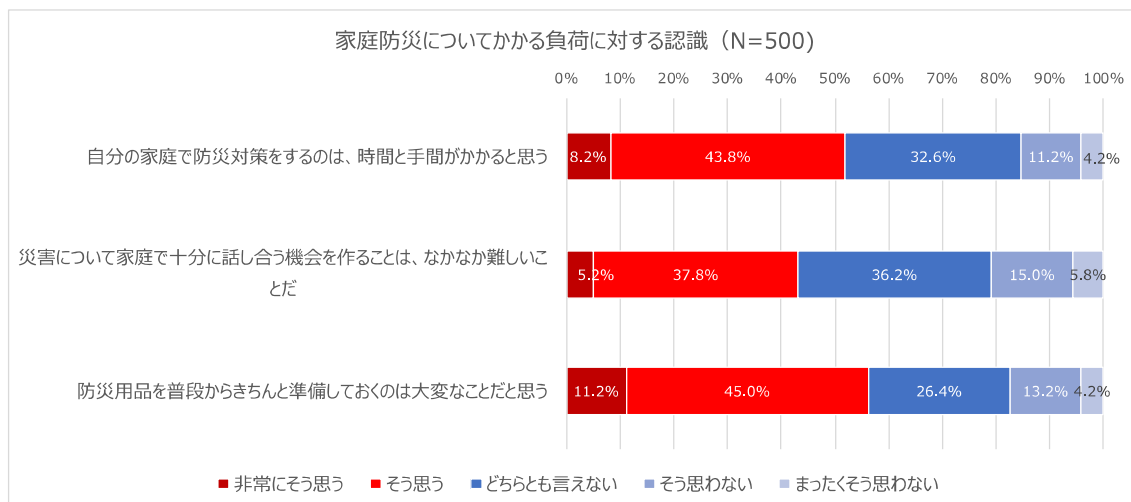
## (5) 家庭防災（自助）についての成果に対する認識【年代別】

- 家庭防災（自助）についての成果に対する肯定的な認識は、30代に強く見られた。
- 水害，地震に対する危機意識も高く，地域防災に対しても課題感を持っている30代は，家庭防災の効果も認識していることがうかがわれる。
- 30代は，災害に対する認識も強い年代であり，課題感を感じていることがうかがわれる。



## (6) 家庭防災（自助）についてかかる負荷に対する認識

■ 家庭防災（自助）に対する負担感は、4割以上の回答者が、時間や手間がかかることや、難しさ、大変さを感じている。



家庭防災（自助）についてどれくらい負担感、時間がかかることや手間、難しさ、大変さについて感じているのか、確認した。

「自分の家庭で防災対策をするのは、時間と手間がかかると思う」と感じているのは、52.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）で5割を超えた回答者が自助の負担感を感じている。

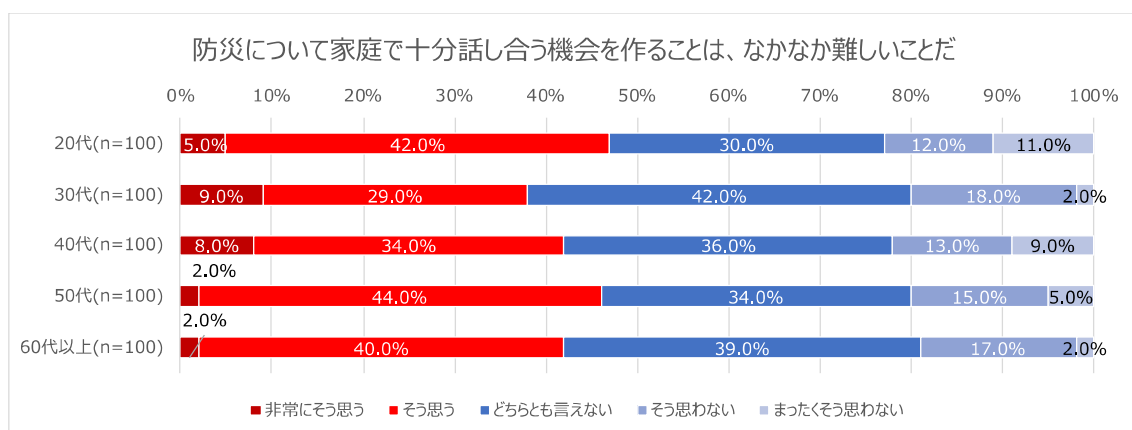
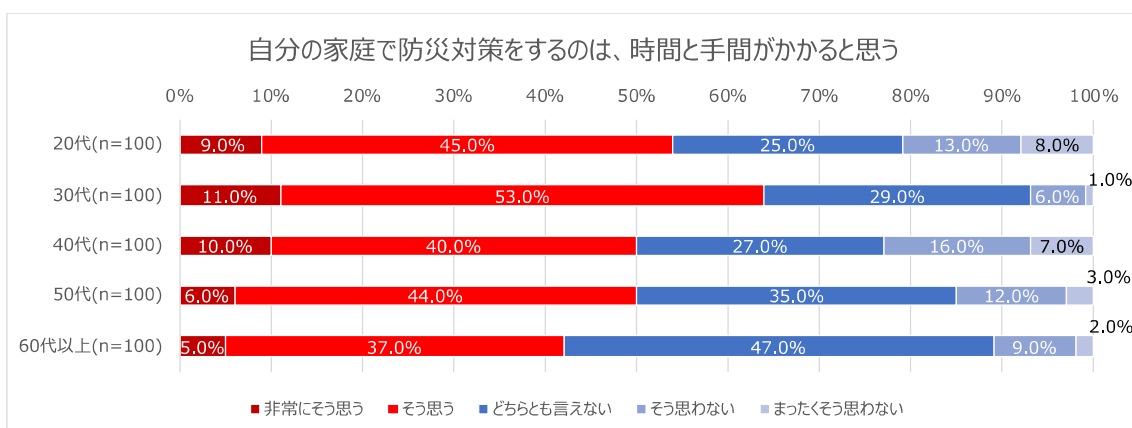
「災害について家庭で十分に話し合う機会を作ることは、なかなか難しいことだ」と感じているのは、43.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

「防災用品を普段からきちんと準備しておくのは大変なことだと思う」と感じているのは、3項目中最も高く56.2%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

2/3弱の回答者が地域防災に関わる負荷を認識している。これは共助（地域の役割）を、個人が主体となって行うことの負荷がまだ高いことを示している。

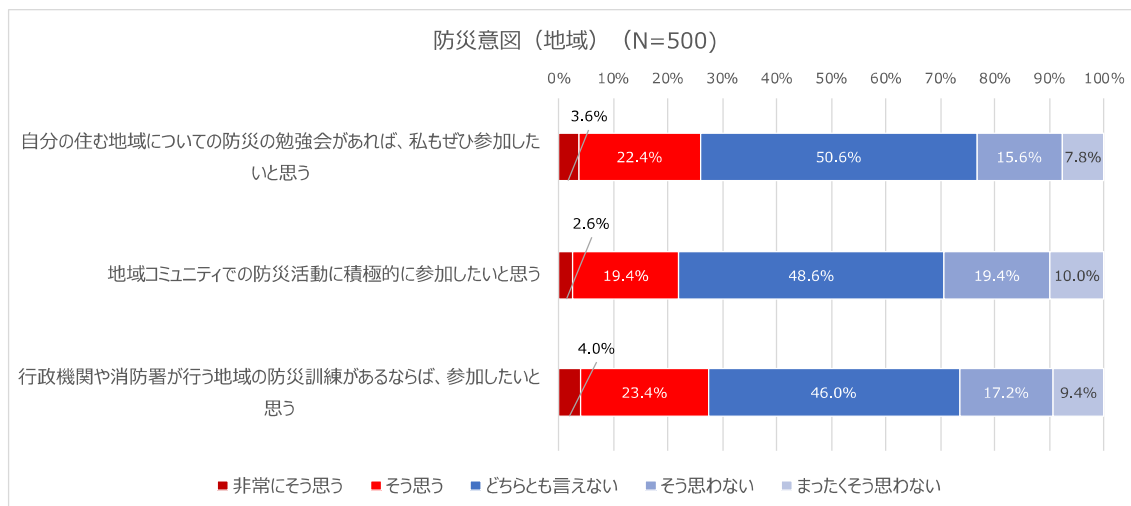
## (6) 家庭防災（自助）についてかかる負荷に対する認識【年代別】

- 家庭防災（自助）に対する負担感は、30代に強く見られた。家庭内で防災について話し合うことに対する負荷の感じ方は、他の年代に比べると低い。コミュニケーションが取りやすい年代なのかもしれない。
- 30代は災害に対する認識も強い年代であり、課題感を感じていることがうかがわれる。
- 防災用品の準備については、40代以下が50代以上に比べて、強く負担（「非常にと思う」）が高いと感じられている。



## (7) 地域防災（共助）に関する活動への参加意識

■ 地域防災（共助）についての勉強会、地域コミュニティでの防災活動、防災訓練などへの参加意識が見られるのは、25%前後で4人に一人の割合に留まっている。



地域防災（共助）についての勉強会、地域コミュニティでの防災活動、防災訓練などへの参加意識について確認した。

「自分の住む地域についての防災の勉強会があれば、私もぜひ参加したいと思う」と感じているのは、26.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

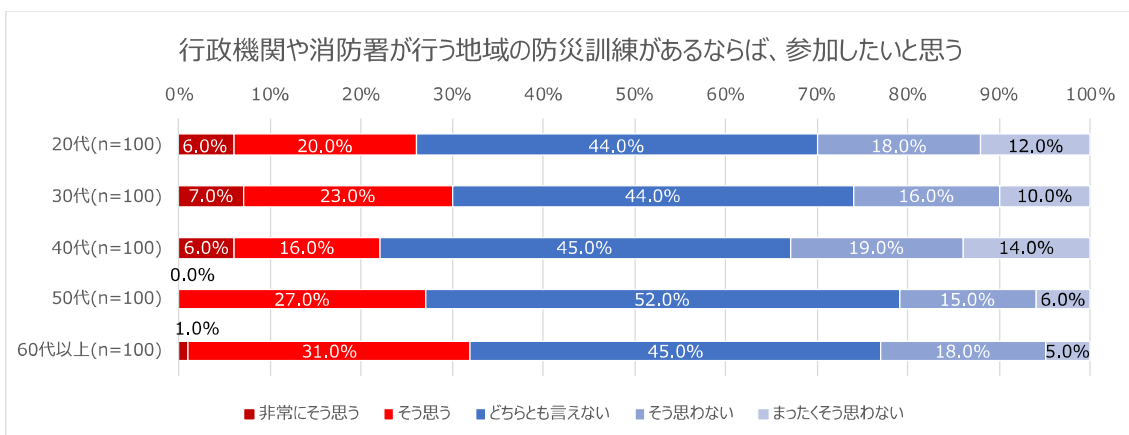
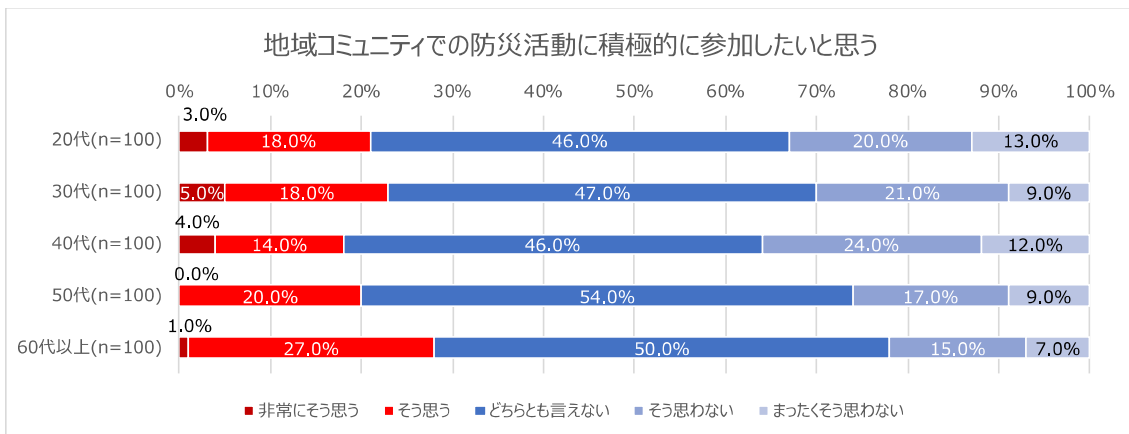
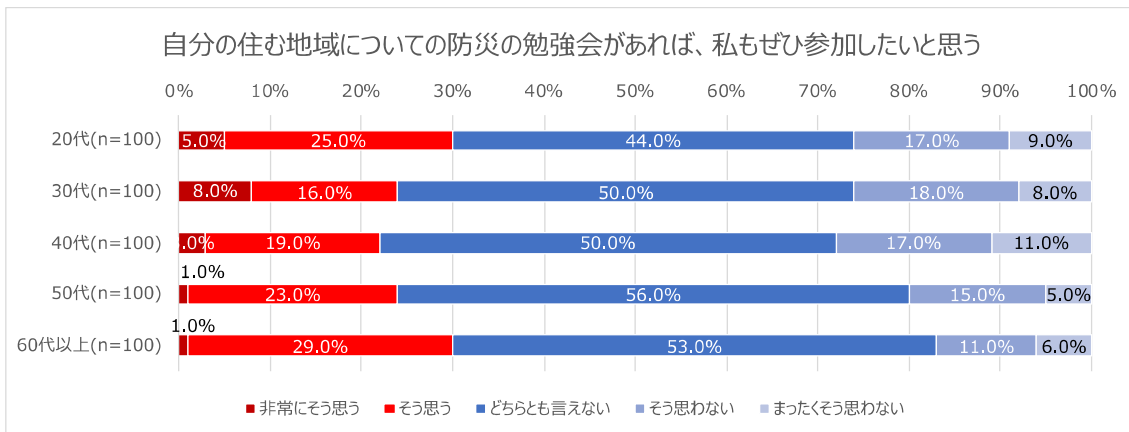
「地域コミュニティでの防災活動に積極的に参加したいと思う」と感じているのは、22.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

「行政機関や消防署が行う地域の防災訓練があるならば、参加したいと思う」と感じているのは、27.4%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

地域防災（共助）についての勉強会、地域コミュニティでの防災活動、防災訓練などへの参加意識が見られるのは、25%前後で4人に一人の割合に留まっている。

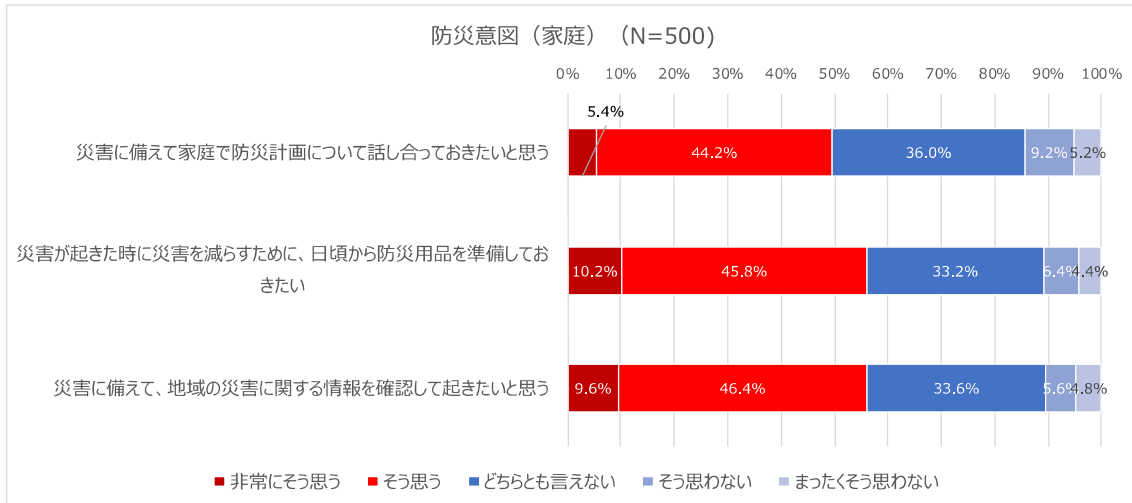
## (7) 地域防災（共助）に関する活動への参加意識【年代別】

- 地域防災（共助）についての勉強会，地域コミュニティでの防災活動，防災訓練などへの参加意識が強く出ている（「非常にそう思う」）のは30代。
- 「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）でみると，20代，60代で防災勉強会に積極性が見られた。



## (8) 家庭防災（自助）に関する活動への参加意識

- 家庭防災（自助）について、家庭での話し合い、防災用品の準備、災害に関する情報の確認については、ほぼ半数以上の回答者で実施意識が見られた。
- 地域防災（共助）の実施意欲が約 25%に比べると、家庭防災（自助）の実施意欲は、ほぼ倍以上（50%以上）の実施意欲を持っている。



家庭防災（自助）についての家庭での話し合い、防災用品の準備、災害に関する情報の確認についての意識について確認した。

「災害に備えて家庭で防災計画について話し合っておきたいと思う」と感じているのは、49.6%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

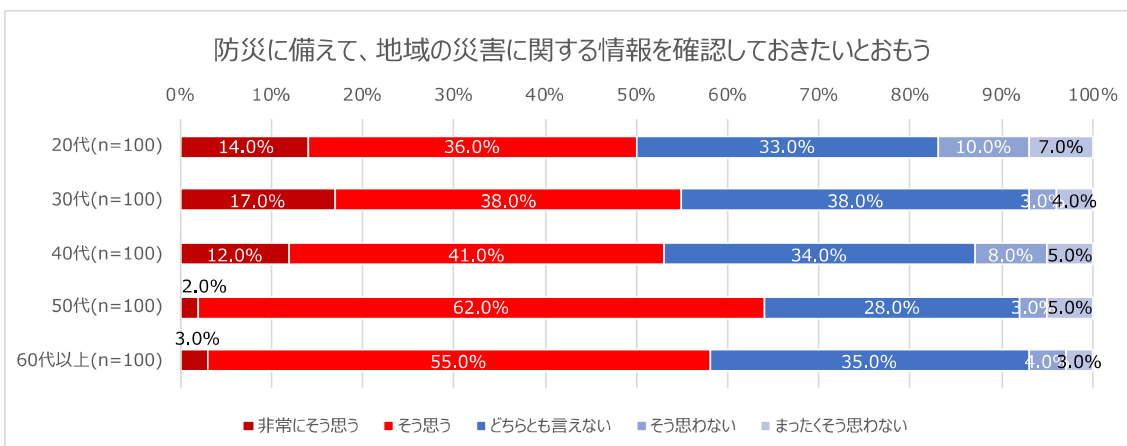
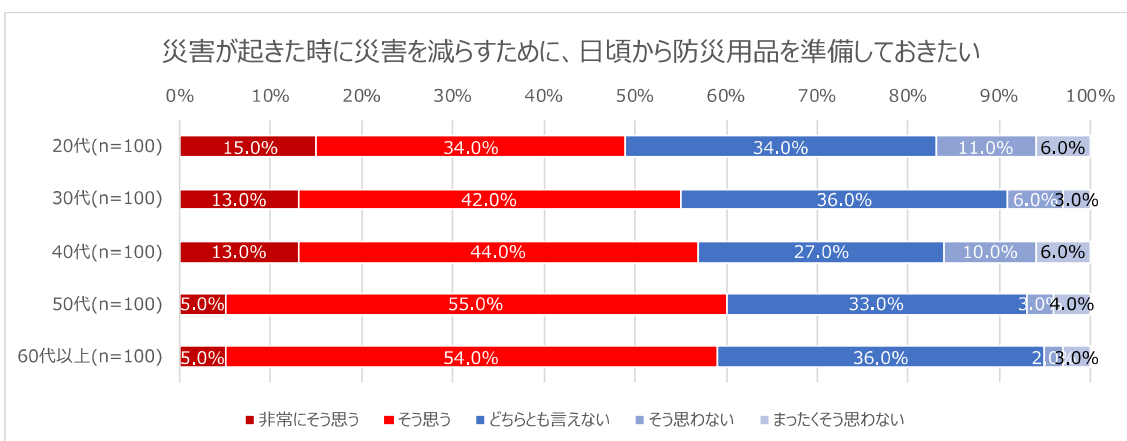
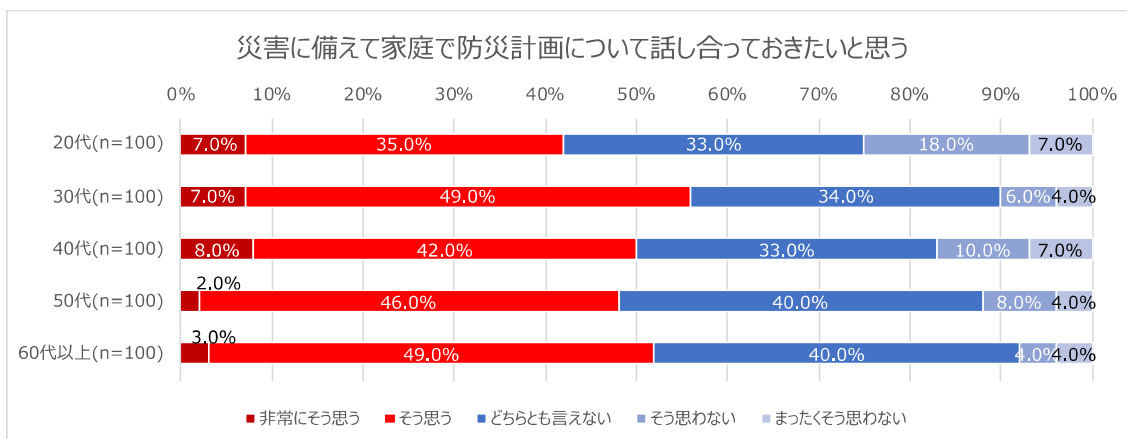
「災害が起きた時に災害を減らすために、日頃から防災用品を準備しておきたい」と感じているのは、56.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

「災害に備えて、地域の災害に関する情報を確認して起きたいと思う」と感じているのは、56.0%（「非常にそう思う」＋「そう思う」）。

家庭防災（自助）は、ほぼ半数以上の回答者に実施意識が見られた。地域防災（共助）に比べると、ほぼ倍近い実施意欲があることが確認された。

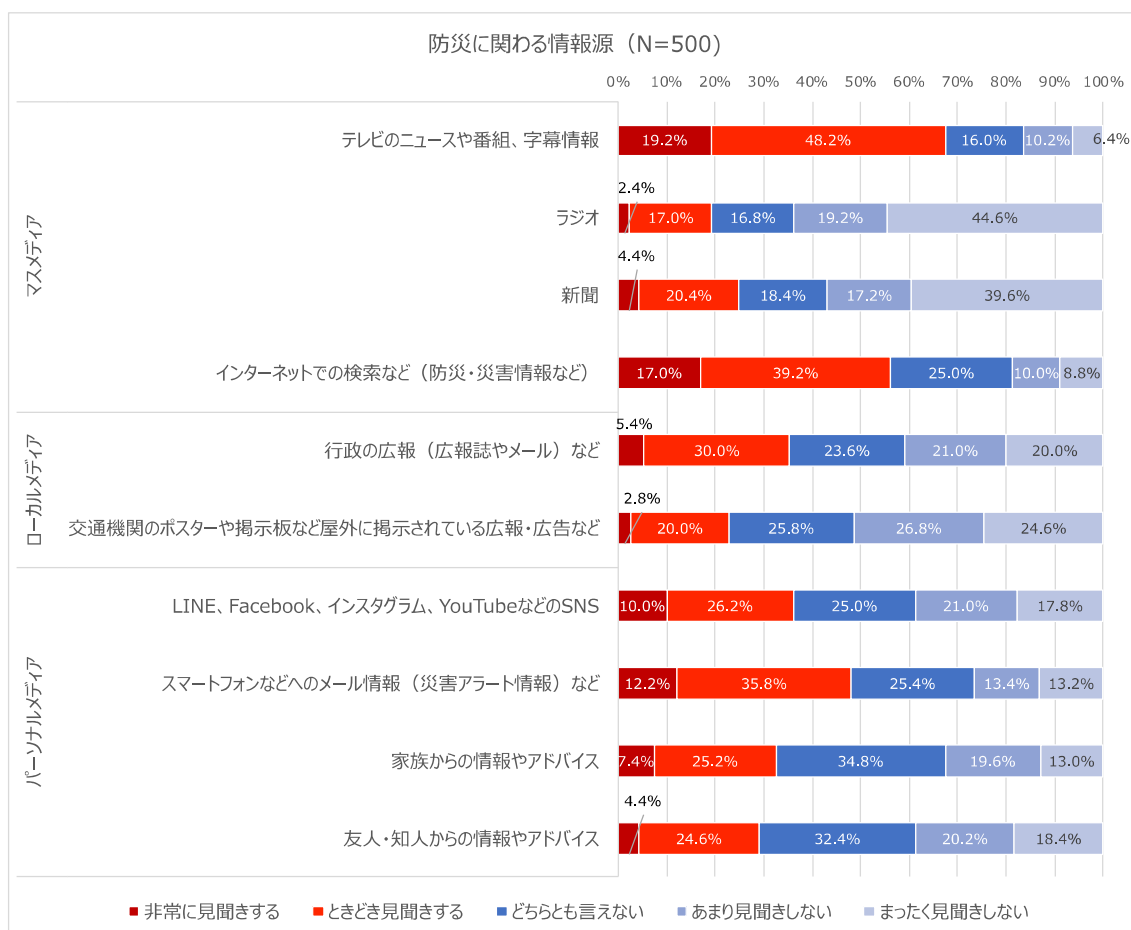
## (8) 家庭防災（自助）に関する活動への参加意識【年代別】

- 家庭防災（自助）について、「家庭で防災計画について話し合っておきたいと思う」意識は30代で最も高い（「非常にそう思う」割合が最も高い）。
- 同様に「防災用品を準備」に対して強く意識しているのは20代から40代にみられる。
- 「情報収集」においても、強く意識している（「非常にそう思う」）のは、30代、20代、40代の順になっている。



## (9) 防災について見聞きする情報源

- 防災に関わる情報源は、マスメディアでは「テレビのニュースや番組、字幕情報」「インターネットでの検索など(防災・災害情報など)」が、5割以上見聞きしている。
- ローカルメディアでは「行政の広報(広報誌やメール)など」を約1/3強が見聞きしている。
- パーソナルメディアでは、「スマートフォンなどへのメール情報(災害アラート情報)など」「LINE, Facebook, インスタグラム, YouTube などの SNS」を見聞きしている割合が1/3以上あることが確認された。



防災に関わる情報源を、マスメディア、ローカルメディア、パーソナルメディアに分けて確認した。マスメディアで、「見聞きする(「非常に見聞きする」+「時々見聞きする」)」のは、「テレビのニュースや番組、字幕情報」「インターネットでの検索など(防災・災害情報など)」などがあがっている。情報のタイムリー性が影響している感がうかがわれる。

ローカルメディアとして「行政の広報(広報誌やメール)など」を、「見聞きする(「非常に見聞きする」+「時々見聞きする」)」のは35.4%で、3人に一人の割合で見聞きしている。

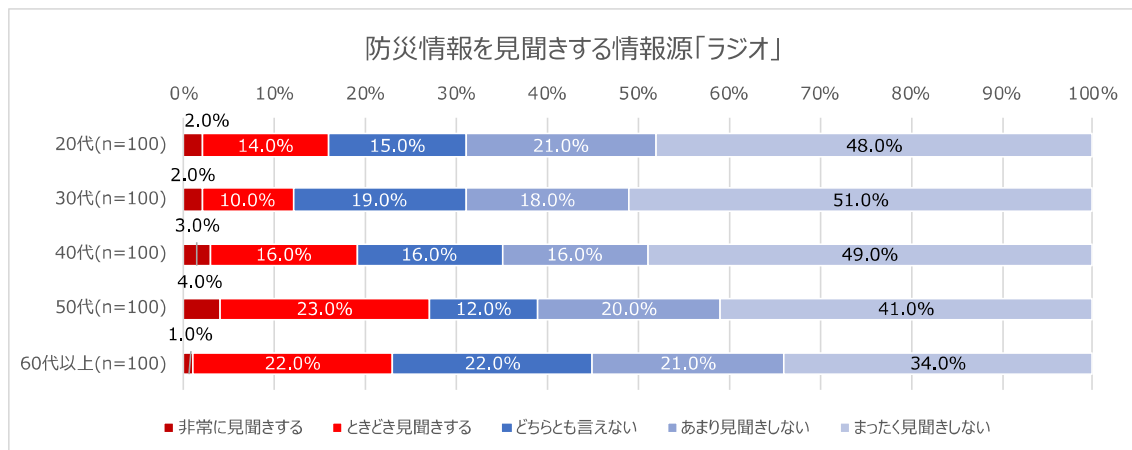
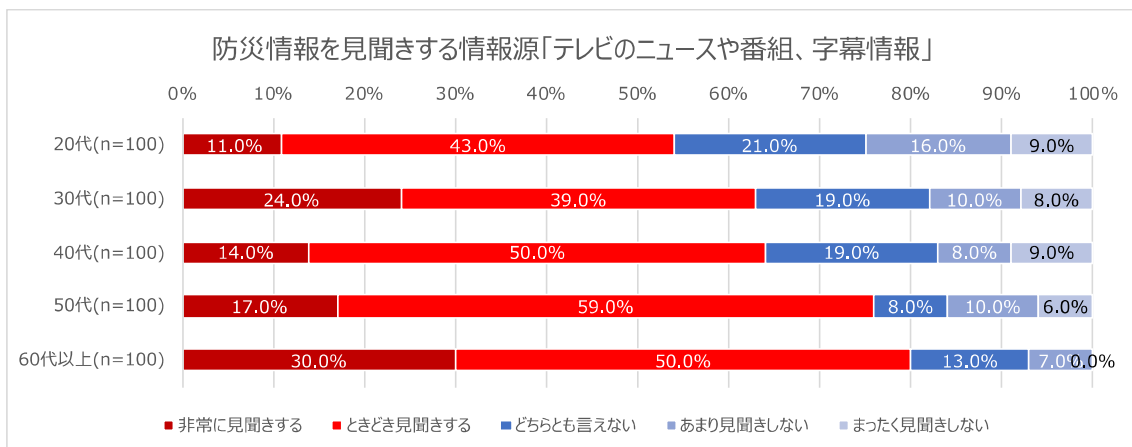
パーソナルメディアでは、「スマートフォンなどへのメール情報(災害アラート情報)など」が、「見聞きする(「非常に見聞きする」+「時々見聞きする」)」割合がもっとも高く48%。約半数が見聞きするメディアとなっている。次いで「LINE, Facebook, インスタグラム, YouTube などの SNS」が36.2%。スマートフォンなどパーソナルデバイスからの災害情報収集の高さがうかがわれた。

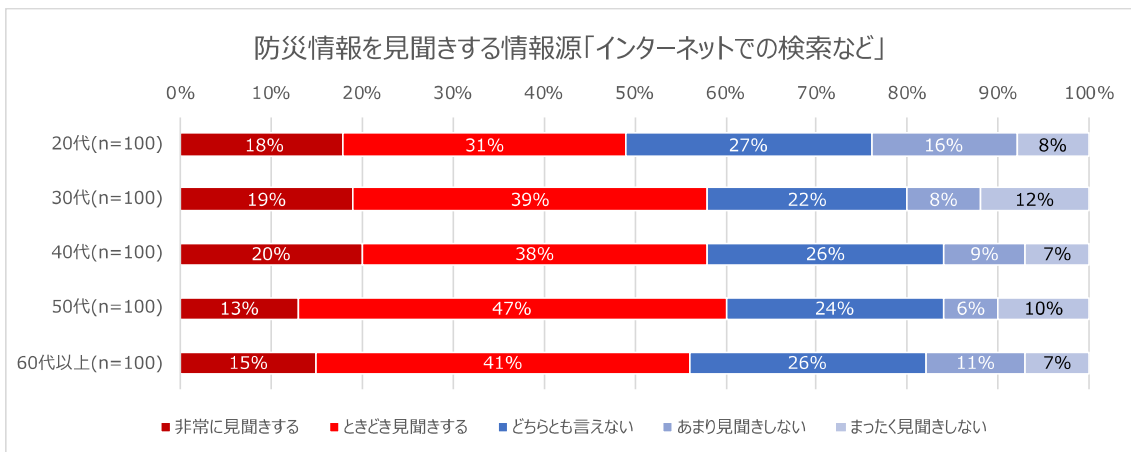
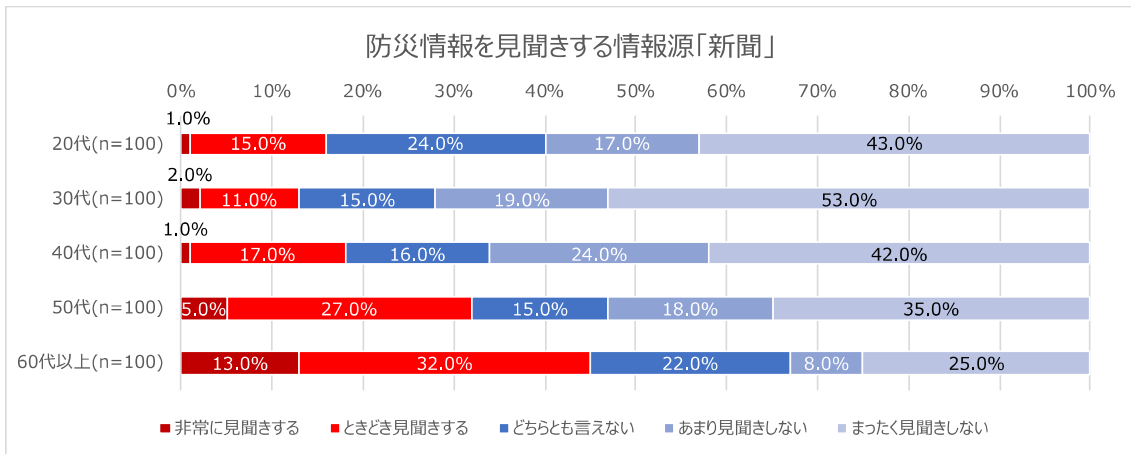


## (9) 防災について見聞きする情報源【年代別】

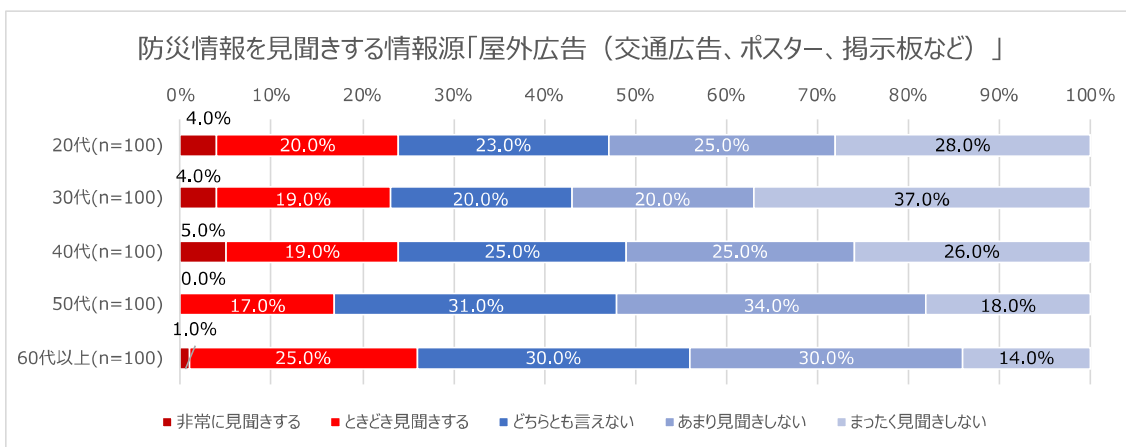
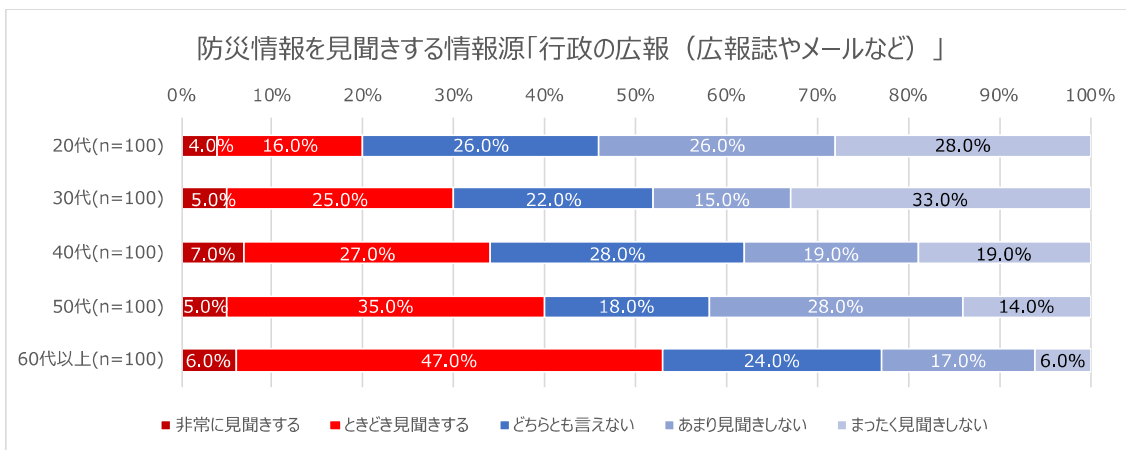
- 年代によって、防災に関わる情報源は異なることが確認された。マスメディアでも、テレビ、新聞、行政の広報は年代が上がるで見聞きする割合が高まり、逆にインターネットでの検索、SNSの活用、メール情報は下がる傾向にある。
- 特に高齢者には、テレビに加えて、新聞、行政の広報を通じた情報提供が有効である。
- すべての生活者に的確に情報を届けるためには、多様なメディアの組み合わせが必要だが、年代別に見ることではっきりする。特に高齢者への情報提供は、周辺の人的サポートも含めて、非常に大切な点である。

### 【マスメディア】

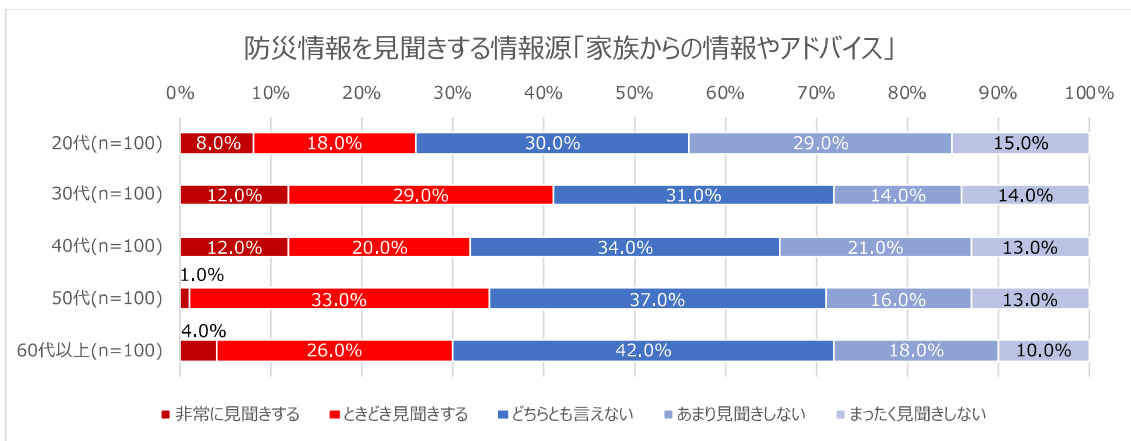
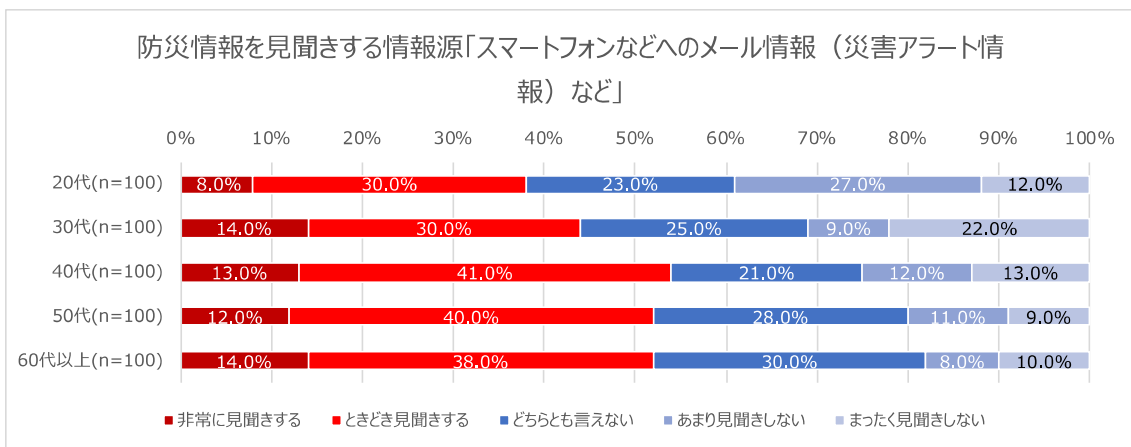
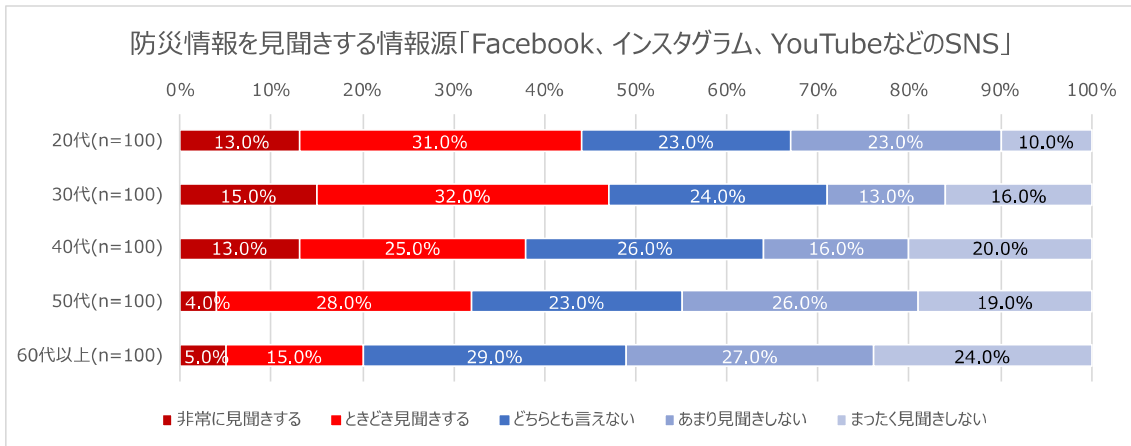


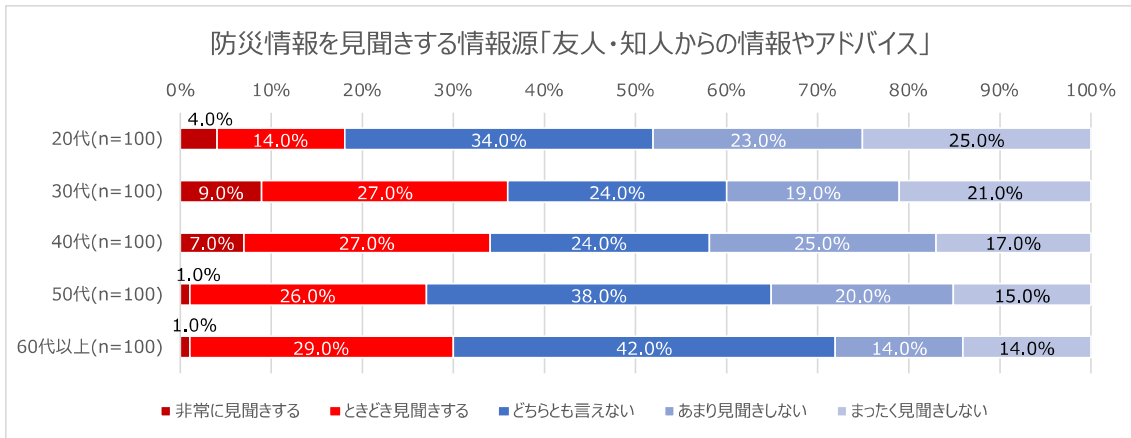


【ローカルメディア】



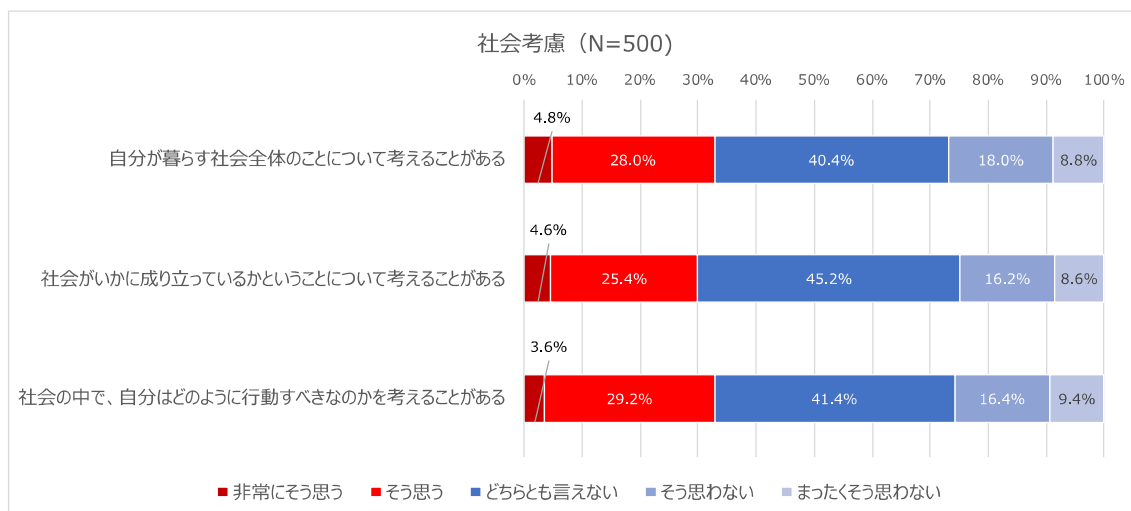
【パーソナルメディア】





## (10) 社会考慮意識

■ 約3割の回答者が、社会構造全体の中での自分の関わりを意識していることがうかがわれる。



防災意識、特に地域防災(共助)意識については、社会の中での自分自身の存在を客観的に意識することが影響していると思われる。そのような視点から以下の3点を確認した。

「自分が暮らす社会全体のことについて考えることがある」について、「そう思う」(「非常にそう思う」+「そう思う」と感じているのは、32.8%。

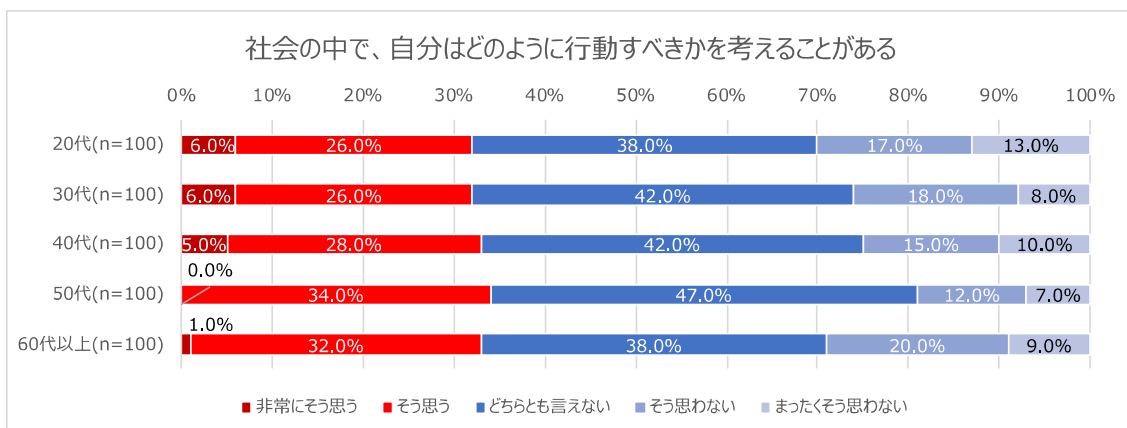
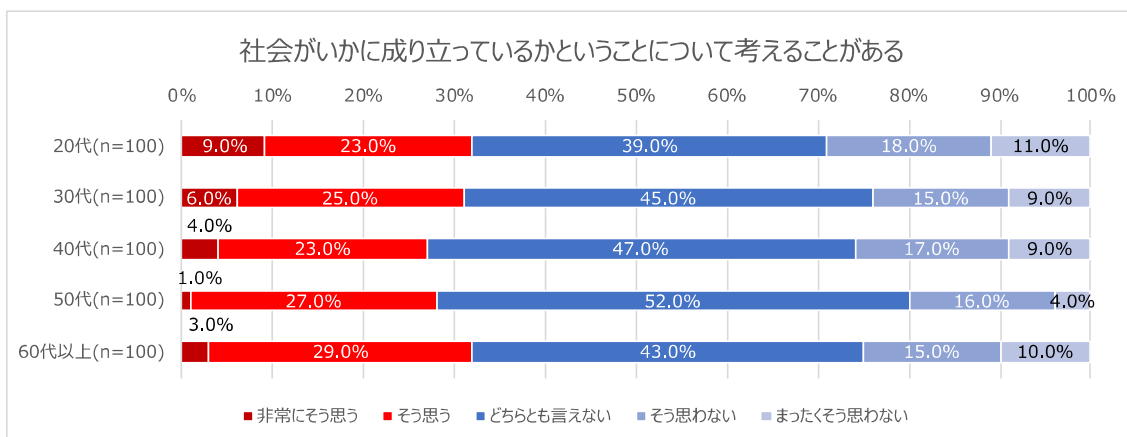
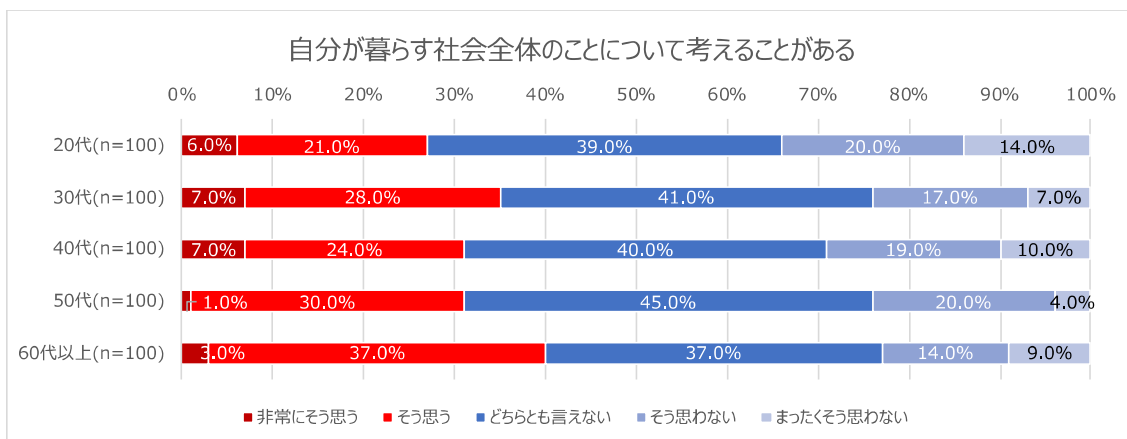
「社会がいかに成り立っているかということについて考えることがある」について、「そう思う」(「非常にそう思う」+「そう思う」と感じているのは、30.0%。

「社会の中で、自分はどのように行動すべきなのかを考えることがある」について「そう思う」(「非常にそう思う」+「そう思う」と感じているのは、32.8%。

約3割の回答者が社会の中での自分の関わりを意識していることがうかがわれる。

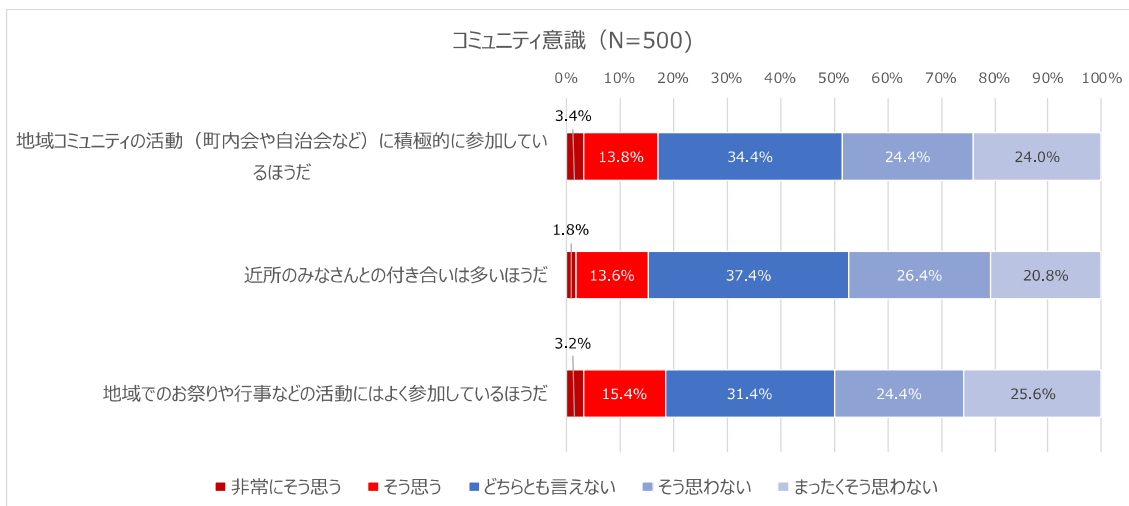
## (10)社会考慮意識【年代別】

- 社会の中での自分の関わりを意識していることが強くうかがわれる（「非常にそう思う」割合が高い）のは、20代～40代にみられ、強く意識しているのは年代が若い層であることが確認された。



## (11) 地域コミュニティ意識

■ 地域におけるコミュニティとの関わりについて、「地域コミュニティへの活動」「近所との付き合い」「地域での祭りや行事への参加」について、現状の関わりに肯定的な回答が得られたのは約2割弱に留まっている。



同様に防災意識、特に地域防災(共助)意識について、地域コミュニティに対する行動や意識について以下の3点を確認した。

「地域コミュニティの活動（町内会や自治会など）に積極的に参加しているほうだ」について、「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）と感じているのは、17.2%。

「近所のみなさんとの付き合いは多いほうだ」について、「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）と感じているのは、15.4%。

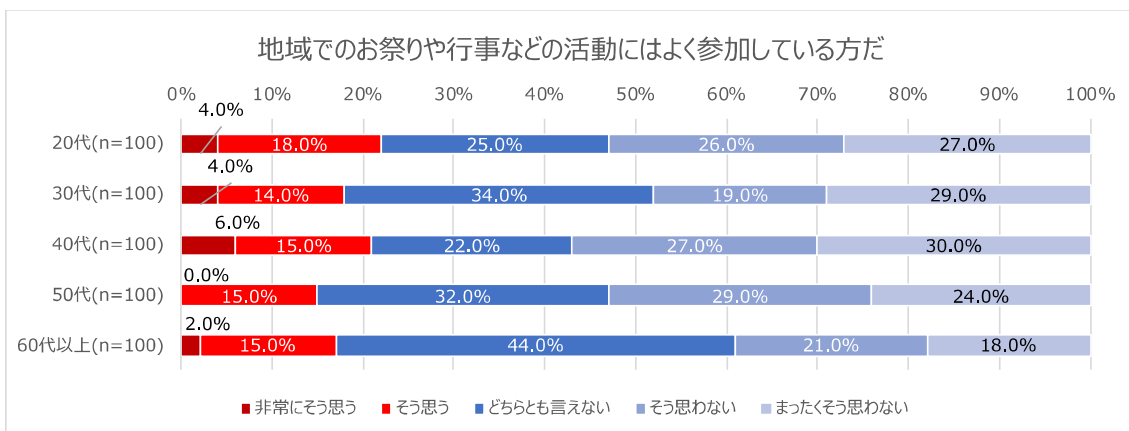
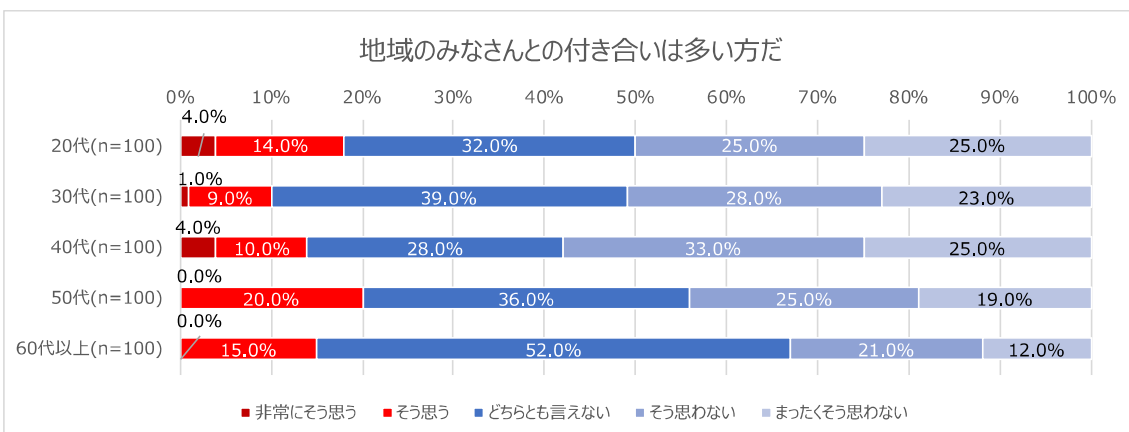
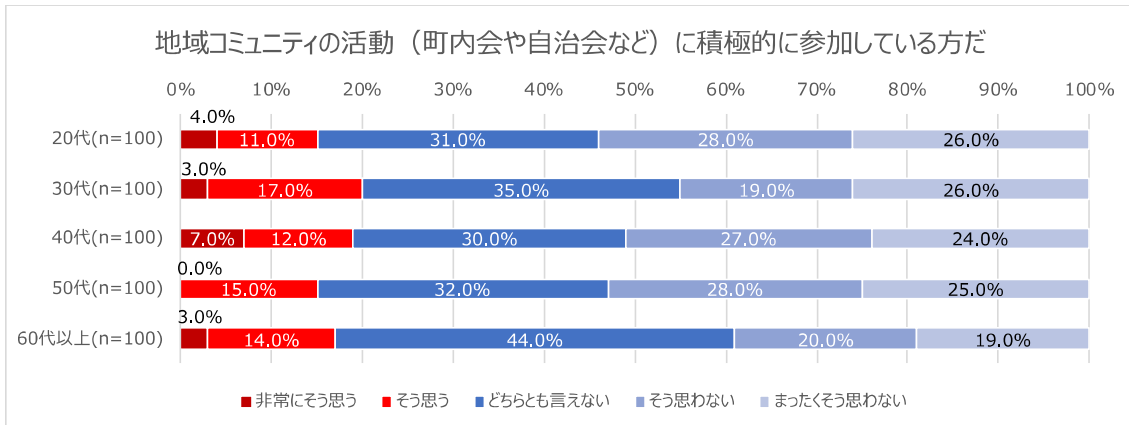
「地域でのお祭りや行事などの活動にはよく参加しているほうだ」について「そう思う」（「非常にそう思う」＋「そう思う」）と感じているのは、18.6%。

地域におけるコミュニティとの関わりについて、肯定的な回答が得られたのは約2割弱に留まっている。



## (11) 地域コミュニティ意識【年代別】

- 地域コミュニティでの関わりを意識していることが強うかがわれる（「非常にそう思う」割合が高い）のも、社会の中での自分かかわりと同様に 20 代～40 代に見受けられる。
- 30 代は防災意識が高いものの、地域との付き合いが少ない感が見受けられる。



## (12) 地域における防災意図に影響を与える要因はなにか？ (参考) ※

■ 地域防災行動を引き起こすには、地域防災の成果に対してポジティブな認識を持ち、地域コミュニティへの参加など地域との付き合いをつくりながら、社会全体の中で自分の立ち位置を認識しておくことが大切であると考えられる。

地域における防災意図を引き起こす要因を確認した。

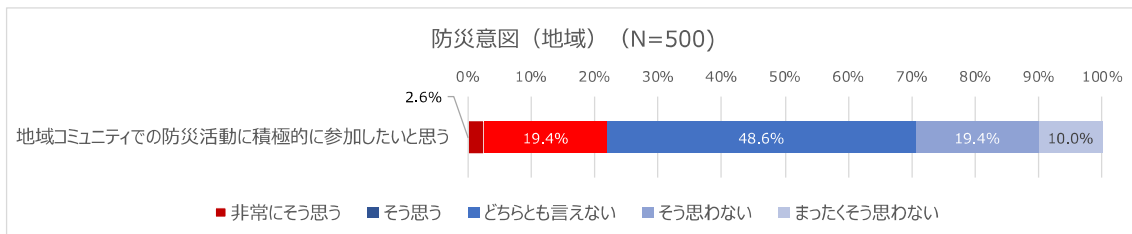
「地域コミュニティでの防災活動に積極的に参加したいと思う」ことを、地域における防災意図の目的変数として、目的変数に影響を与える要素を説明変数として重回帰分析をおこなった。有意な要素 ( $p < 0.05$ ) として、目的変数に影響が強い順 (係数の値が大きい順) に、

- ・「近所のみなさんとの付き合いは多いほうだ」 0.186
- ・「自分が暮らす社会全体のことについて考えることがある」 0.162
- ・「地域全体で災害について準備しておけば、災害時の被害を減らすことができると思う」 0.096
- ・「地域コミュニティの活動(町内会や自治会など)に積極的に参加しているほうだ」 0.091

があげられた。

地域防災の成果に対してポジティブな認識を持ち、地域コミュニティへの参加など地域との付き合いがありながら、社会全体の中で自分の立ち位置を認識しておくことが、地域防災行動意図を引き起こすことに影響があると思われる。

### ■ 目的変数



### ■ 説明変数 (要素)

	係数	t	P-値	
自分の住んでいる地域が水害で被災することがあると思う	-0.0258	-0.4860	0.6272	
今住んでいるところは、水害で被害を受けやすい地域だと思う	-0.0055	-0.0965	0.9231	
雨が降るたびに、「水害がおこるのではないか」という不安にかられる	0.0090	0.2071	0.8360	
「地震が起きたらどうなるだろう」という不安にかられる	0.0602	1.3768	0.1692	
自分の住んでいる地域は、地震で大きな被害に遭う可能性が高いと思う	0.0588	0.9982	0.3187	
今住んでいるところは、地震による被害が起きやすい地域だと思う	0.0845	1.4219	0.1557	
地域のみなで災害に備えれば、災害が起きてもうまく対処できるだろう	0.0699	1.5619	0.1190	
地域全体で災害について準備しておけば、災害時の被害を減らすことができると思う	0.0964	2.0158	0.0444	有意
防災訓練に参加すれば、災害の時に何かの役に立つと思う	0.0585	1.1977	0.2316	
自分が暮らす社会全体のことについて考えることがある	0.1615	2.8554	0.0045	有意
社会がいかに成り立っているかということについて考えることがある	-0.0206	-0.3708	0.7110	
社会の中で、自分はどのように行動すべきなのかを考えることがある	0.0332	0.6484	0.5170	
地域コミュニティの活動(町内会や自治会など)に積極的に参加しているほうだ	0.0912	1.9735	0.0490	有意
近所のみなさんとの付き合いは多いほうだ	0.1856	3.6569	0.0003	有意
地域でのお祭りや行事などの活動にはよく参加しているほうだ	0.0615	1.2895	0.1978	

### ■ 決定係数 $R^2$ 0.405

※決定係数  $R^2$  0.405 で、本モデルの当てはまり度は約 4 割であるため、参考資料としている。

### (13) 家庭における防災意図に影響を与える要因はなにか？ (参考) ※

■ 家庭での防災行動を引き起こすには、社会全体に想いをはせながら、自分がどのように行動すべきかを考える。同時に地震や水害に対しての危機意識を抱いていることが大切であると考えられる。

家庭における防災意図を引き起こす要因を確認した。

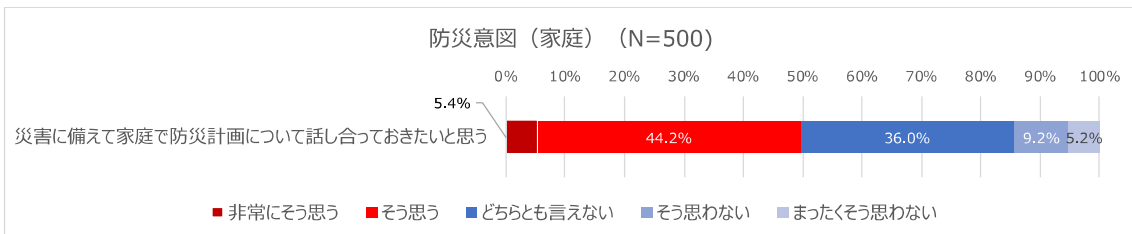
「災害に備えて家庭で防災計画について話し合っておきたいと思う」ことを、家庭における防災意図の目的変数として、目的変数に影響を与える要素を説明変数として重回帰分析をおこなった。有意な要素 ( $p < 0.05$ ) として、目的変数に影響が強い順 (係数の値が大きい順) に、

- ・「自分が暮らす社会全体のことについて考えることがある」 0.199
- ・「大地震のことを考えると、心配なことが多い」 0.178
- ・「社会の中で、自分はどのように行動すべきなのかを考えることがある」 0.135
- ・「自分の住んでいる地域は、地震で大きな被害に遭う可能性が高いと思う」 0.113
- ・「自分の住んでいる地域が水害で被災することがあると思う」 0.096

があげられた。

社会全体に想いをはせながら、自分がどのように行動すべきかを考えている。同時に地震や水害に対しての危機意識を抱えていることが、家庭防災行動意図 (この場合は家族での防災計画について話し合うこと) を引き起こすことに影響があると思われる。

#### ■ 目的変数



#### ■ 説明変数

	係数	t	P-値	
自分の住んでいる地域が水害で被災することがあると思う	0.0962	1.8705	0.0620	有意
今住んでいるところは、水害で被害を受けやすい地域だと思う	-0.0523	-0.9542	0.3405	
雨が降るたびに、「水害がおこるのではないか」という不安にかられる	-0.0209	-0.4950	0.6209	
「地震が起きたらどうなるだろう」という不安にかられる	0.0740	1.4905	0.1368	
南海トラフが起こった時のことを考えると、とても不安になる	0.0088	0.1575	0.8749	
大地震のことを考えると、心配なことが多い	0.1776	3.0399	0.0025	有意
自分の住んでいる地域は、地震で大きな被害に遭う可能性が高いと思う	0.1129	1.9556	0.0511	有意
今住んでいるところは、地震による被害が起きやすい地域だと思う	-0.0761	-1.3179	0.1882	
自分が暮らす社会全体のことについて考えることがある	0.1985	3.6625	0.0003	有意
社会がいかに成り立っているかということについて考えることがある	0.0252	0.4694	0.6390	
社会の中で、自分はどのように行動すべきなのかを考えることがある	0.1349	2.7123	0.0069	有意
地域コミュニティの活動 (町内会や自治会など) に積極的に参加しているほうだ	0.0349	0.7755	0.4384	
近所のみなさんとの付き合いは多いほうだ	0.0036	0.0739	0.9411	
地域でのお祭りや行事などの活動にはよく参加しているほうだ	0.0609	1.3138	0.1895	

#### ■ 決定係数 $R^2$ 0.411 ※

※決定係数  $R^2$  0.411 で、本モデルの当てはまり度は約 4 割であるため、参考資料としている。

以上